

# オパンケガイドブック



山形知己

私がオパンケを作り始めたのは1975年頃、学生から社会人となり就職して東京に赴任した時。先崎さんが主宰しているXOPOΣ(ホロス)にいた頃です。当時オパンケは真に希少品でした。現地に行った人(これも非常に僅か)が持ち帰ってくる貴重品、欲しくても到底手に入らないものでした。そんな中、ホロスメンバーでオパンケを履いている人がいて、どこで手に入れたのかと聞いた所「自分で作った」という返事でした。「オパンケは作れるものなんだ」と知ったのが切っ掛けです。人が作れるのなら、上手くできるかどうかは別にして自分でもやってみるか作り始めて現在に至っています。

当初は失敗作の連続、少なくとも10足くらいはボツにしたでしょう。次第に形がオパンケらしくできるようになり、その作品を見た人からの要望で結構の数を現在までに作りました。

2019年4月、愛知でのパーティーで久々に会った人に「オパンケの作り方を書いておかないか」と言われ、ひとつやってみるかという事でこの文章をまとめました。

タイトルを「オパンケガイドブック」としたのは単に作り方説明ではなく、オパンケにも様々な形があり国や地域で違いがあるのを知ってほしい、それに触れるページも加えたからです。十分な資料を集めた訳ではないので完ぺきなどと到底言えないでしょうが、ダンス愛好者の皆さんの話のタネになればいいかな?と思っています。

## Index

◎オパンケ作りの前に留意しておいてほしい事	P.1
◎作り方説明(手順と寸法図)	
[1]マケドニアタイプ(足首ベルト締め)	P.2
[2]ヒモで締めるタイプ	P.17
[3]薄い皮で作るオパンケ	P.21
[4]編み上げベルトの作り方	P.27
※オパンケ作り余談	P.32
◎材料・道具の説明と入手先	
[1]材料皮・道具類と販売店リスト(全国主要都市にあります)	P.33
[2]オパンケを買える店の紹介	P.40
◎オパンケの形・種類のいろいろ	P.42



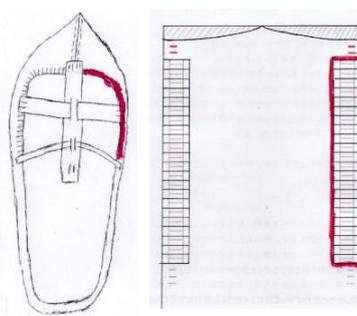
## ◎オパンケ作りの前に留意しておいてほしい事



ダンス愛好者の方々がオパンケと聞いて思い浮かべるのが左の写真のものでしょう。一般的にマケドニアタイプと言っていますが、ブルガリアにもこのような形はあります。皮にヒダを切って寄せていきクツの前半部の船のような形を作っているのが特徴です。この説明書で触れているのもこの形のオパンケです。

実際に作る場合にこのヒダの数と大きさをキチンとしておかないと失敗するので、本文に入る前に一文にしました。

**気を付けてほしいのは材料のクツ本体皮の厚みによってヒダの数と大きさが変わるとい点です。**



左イラストの赤カーブ線がヒダを切って成型した部分、右イラスト(製作前展開図)の赤線で囲んであるのが平面状態のヒダ部分です。クツの大きさにより幾分かの大小はあるがカーブ部分長さは8cmほど、それに対して平面状態のヒダ部分長さは16cmほどになる。ヒダを切り捻じった状態でヒモで締め、前から順にヒダを重ねて平面の皮を船のような形に整形しています。

下の3枚写真①は皮の厚み4ミリ、ヒダ数は22枚。②は厚み3ミリヒダ数は28枚。③は厚み2ミリ、ヒダ数は46枚。ヒダ1枚の巾は7ミリ・5ミリ・3ミリです。



私は材料皮は主に4ミリ厚の皮を使っています。厚みがあるので皮が硬く加工に手間はかかるが強度のあるオパンケになり、年月を経ると自然に皮がこなれ履きやすくなります。

**薄い皮を使えば柔らかいので作業は楽だが、強度的にはいささか落ちる事になってしまいます。**

ヒダが小さくなると真ん中に切れ目を入れ、ヒモを通す場合に細いヒモしか使えなくなる。

**細い皮ヒモは長い間には劣化が早くない、切れやすくなるという欠点があります。**

どのような材料を使うか、手に入れる状況によって色々とおあるでしょう。ずっと作ってきた者としての経験から申し上げれば、手間はかかっても厚みのあるシッカリとした材料を使う事をおススメします。長く使うには結果的にその方が安くつきます。長くは使わない、一時的にあれば良いのであればこの範囲ではありません。それぞれのお立場でご判断ください。

## ◎オパンケの作り方

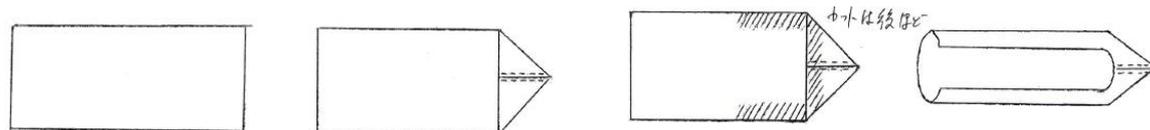


多くの愛好者が履いているのはマケドニアのタイプが多いのでまずはその説明をいたします。寸法割り付けは後に図面を、材料の皮についてや、どのような道具が必要かなども後ページで触れており、それらの材料皮や道具類を取り扱っている販売店も記載しています。販売店は大小あり、卸店の性格の店とその取引先小売店に別れます。小売店は全国主要都市に所在しているので「手に入らない」という事はまずないでしょう。興味のある方は調べてチャレンジしてみてください。

### [1] マケドニアタイプ:足首ベルト締め

- ◎材料 ・オパンケ本体用=厚み4ミリ 30cm×45cm 1枚 ・皮ヒモ 巾5ミリ  
・足首ベルト&ベルト受け用=厚み1～1.2ミリ 長さ60cm 2本  
※足首ベルトは2本必要であり長いものを切り出せるのがベターだが、店で売られている材料皮は30cm×30cmあるいは40cm角くらいです。ベルトは1本で45cm強は必要なので大きな皮は意外と少ないのが実情、そこで「見えない所をつなぐ」という方法も有効です。つなぐ方法は後の作り方手順の中に記載します。  
・ベルト用小バックル 10～12ミリ巾用 2個

このイラストは製作の概ねの手順を示しています。個々の説明はこの後をご覧ください。



いろんなオパンケがあり、それらを見ると一見複雑に見えるかもしれませんがオパンケを一言で言えば「しごく簡単な構造」だと言えます。縮めるためのヒダがたくさん切っている、底が丸みを帯びてカーブしていたりとテクニックは使っているが理屈が分かればシンプルです。

**あとは「作るにあたっての手間」を当然と思うかシンドイと思うかの違いでしょう。**

上のイラストを見ての通り、最初は1枚の皮であり、それをどう加工するかというだけの事。

**ダンスをやる時と同じで「難しそうと思わずやってみて」ください。意外とできてしまうものです。**

#### 製作手順

①本体皮の先端側とカカト側を決める。カカト側に部品の寸法位置を記す。

皮にはそれぞれに「ある種のクセ」があります。厚みは業者の段階でなめしたりする時に均一になるが、元のどの部位から取るかで硬さや場所によってはコシがない(柔らかすぎる)事もある。よく見ないとキズやシワ、皮のたるみがあったりします。皮を購入する時にはその辺を見極めるように、つま先側はしっかりしている方が良いのは無論です。

②本体部分寸法と部品部分寸法を皮の裏側に記す。

本体＝巾15cm・長さ40cmほど（女性や足が小さい人は巾13cmほどでも可）

※本体前半部を縮めていくヒダの数：片側22枚・ヒダの巾：7ミリ・深さ：2cm

**このヒダの数と巾は皮の厚みが4ミリの場合の物です。**

（詳細は12～13ページの寸法図を参照してください。）

部品＝舌：巾3cm・長さ15cmほど

ブリッジ大：巾1.5cm長さ15cm位・ブリッジ小：巾1cm・長さ20cm位

※オパンケを作る際に意外と悩むのが足の甲周りの大きさを決める事。巻き尺を使い、自分の甲周りの寸法を把握しておいてください。私の経験では甲周りの周回寸法は概ね本人の足の長さ(クツのサイズ)とほぼ同じ、サイズが25cmなら甲周りもおおむね同じでした。

甲周りは本体に部品のブリッジを取り付ける事で決まります。従ってブリッジの長さは余裕を持って記しておく事、慌てて長さを決めてしまうと使えなくなるので注意。寸法割り付け注意点(12～13ページの割り付け図参照)、実際の取り付け方は後の手順に書いてあります。

③寸法取りラインに従い皮をカット（必要に応じハサミ・カッターナイフを使い分ける）

ハサミを使うのが安全だが皮の硬さ次第で時間がかかる。手が痛くなるのを覚悟する事。

カッターナイフだと比較的切りやすいが、寸法ラインをそれたり斜め切りしたり、また手を切らないように充分注意して行う事。カッターナイフの場合はカット用下敷きと刃がそれないようにガイド用の金属定規がある方が良い。後の材料・道具説明の36ページを参考にしてください。（部品それぞれの切り離しも同時に行っておく）

#### ※カットの注意点ー1

本体と舌はカットして良いがブリッジ大と小は長いままにしておく事。それぞれの片側にヒダを記す、または取り付け位置ラインを入れるだけにしておく。もう片側は何も記さないように、足の甲周りの周回寸は個人差があります。本人の足に合わせてから長さや位置決めをし、カットしないと後で「しまった！」という結果になります。ブリッジ小はヒダはつけずにベルト状のまままで使い、大よりも長めになります。

#### ※カットの注意点ー2

前半部を縮めるためのヒダをハサミで切り離す前にヒモを通す切れ目を入れる。切れ目は後で紹介する平刀を使いますが、下にゴム板(道具紹介36ページ参照)を敷いて上から刺すという事をヒダの数だけ繰り返す。ヒダを先に切り離さない方が作業がスムーズです。

④先端部の縫い合わせ

a)先端の形はオパンケの中で大事、材料の基本は四角の皮です。作り始めた当初は単に四角の皮の短辺を半折りにして縫い合わせれば良いと思っていたが、何足か作った後に先端が上向きにならず悩みました。ある現地産オパンケの先を見てやっとその処理法を発見。



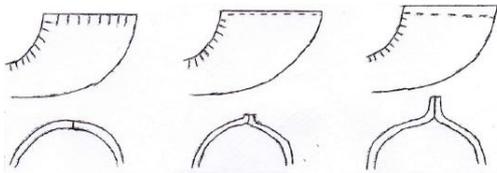
左=当初のつま先。このように下向きになってしまう。

中=ヒントを得た現地産のもの、先端の縫い合わせ部をカーブ加工している。

右=先端をカーブさせてカットした現在の形。

寸法取りの段階で先端の縫い合わせ部分をカーブした状態にカットできるようラインを引いておきます。(12ページ前半部寸法図の先端部参照) 先端部をカーブもしくは斜めにカットし縫い合わせる事で皮の柔軟性を利用して先端を上向きにしていたのです。

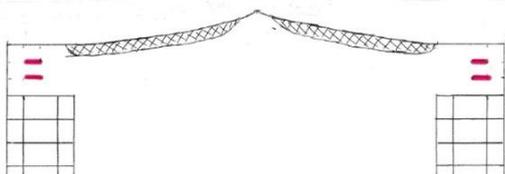
b)先端部の縫い合わせで皮の合わせ方は二通り。



左は皮の厚みの端同士を突き合わせて縫い合わせ。中と右はいわば半分折りにした紙を端で留めるようなもの。留める位置を浅くするか深くするかの違いです。皮は厚みがあるので半折りにした中心部(つま先先端部=右の写真)が丸みを帯びてしまう。左端イラストのように突合せにするよりはイラストの中と右のように合わせるのが影響を受けにくくスムーズに縫い合わせる事ができます。

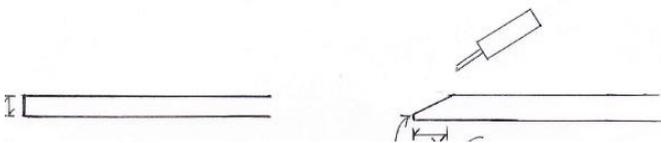


私は先端部の縫い合わせで一手間を加えます。縫い合わせ部分の皮の裏側を少し削いでおくのです。(イラストの斜線部分)



カーブさせてカットした縁から5ミリほどの範囲。頂点に近い部分と後で舌を取り付ける長穴部分は削がないように、頂点部はそのままオパンケのつま

先の丸みを帯びた先(右上の写真)になります。舌の取り付け長穴部分は突合せにして平面になるように縫う方が後の作業と見た目が良くなります。

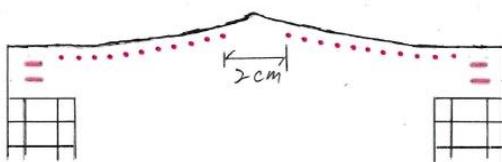


**皮の縁の部分を削ぎすぎないように。**

**5ミリほどの帯状に三角にする。**

**縁は1ミリほど厚みを残す。**

この時皮の裏を削ぐのには平刃の彫刻刀を使うのが簡単です。使う時は手を切らないように十分に注意、平刃彫刻刀は後でオパンケを縮めて先を整形するヒダの切れ目を入れる作業、また部品の舌にブリッジを通すための切れ目を入れるのにも使えるので1本あればとても重宝します。



つま先を縫い合わせるために糸穴を千枚通しで先に開けておく。頂点部を中心に左右に2cmほど間を取り、縁から3ミリの所でカーブに沿うように。穴の間隔は5ミリ、舌取り付けの長穴の手前まで。

**※このイラストの時点では赤い糸穴点のあたりは斜めに裏を削いだ状態になっている。**

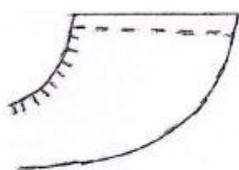
先端部縫い合わせ時に仕上がりをきれいに見せるための一手間を紹介します。縫い合わせるだけなら根元側から先まで交互に針を進めて行けば良い。ただこれだと縫った糸目が横から見て飛び飛びで、縫い合わせ部分が上から見ると少しジグザグ。そこでの一工夫。

- ・糸のスタートは根元の片側の縁から2番目の糸穴から始め内側から外に向かう。
- ・同じ側の3番目穴に外から内へ通し、右側の3番目穴に内から外へ通す。
- ・右側の4番目穴に外から内へ通す。
- ・左側4番目穴に内から外へ通す。以上を繰り返し先端へ向かう。

※先端まで行ったら千枚通し(目打ち)を使って糸に緩みがないようしっかりと締める。

この時点で縫い糸は互い違いに飛び飛びの状態、先端の合わせも上から見るとジグザクになる。ここから糸を根元に向い戻す事で糸目のふくらみはあっても上から見て揃った様子に仕上げます。

### 糸目は飛び飛び状態



### 後半のやり方で往復した縫い目



### 真上から見た縫い合わせ部



- ・糸を先から根元へ糸目の開いている所を埋めるように進めて行く。
- ・最後に残った根元側1番目の穴に内から外へ2回通して締め上げて裏で糸を止める。

※穴の2番目から先に向かって戻るまでは皮を折り合わせた状態で縫い、戻って最後の穴の所では皮を少しねじって皮の端同士を突き合わせで縫い止める。糸穴の1番目から縁の部分が一枚になるようにするのはここに部品の舌を取り付けるため。

(次の⑤舌の取り付けのイラスト参照)

**つま先の縫い合わせはかない手間な作業です。前ページ左端のイラストのように縫い目が飛び飛びになったり、縫い合わせ部分が上から見ると多少ジグザグになるのを気にしなければ「先から手前へ一方向だけ縫っていく」のが手間がかからずすみずみです。**

※前にも書いてあるが根元から先に向かう縫いの時に糸に緩みがなく、皮がしっかりと合わさっているように締めておく事。先から根元へ戻る縫いの時、針を押し込むとすでに通っている糸のすぐそばを、というよりは糸の中を針が貫通している状態になります。後の道具紹介の項で「皮用縫い針と丸針を使い分ける」と書いています。縫い針を使うと「針の三角エッジで先に通っている糸を切ってしまうから」です。しっかりと締めてあれば、その糸の中を次の糸が通っても強度的には問題はない、従ってこの縫い合わせには丸針を使ってください。(右写真の左が縫い針・右が丸針)

また事前の過程で糸穴を寸法取りして開けても微妙にズレているもの。針はかなり押し込みにくい状況になっています。

そこで道具紹介にあるプライヤーやペンチの出番となります。





糸を通した丸針をプライヤー先端で挟み皮の糸穴に押し込むと力が入り、針が通しやすくなります。注意点は針の先は短く出す事、針先がプライヤーから長く出た状態だと針が曲がったり折れたりする。場合によっては手に突き刺さったりして非常に危険なので注意して行ってください。



(押し込む)

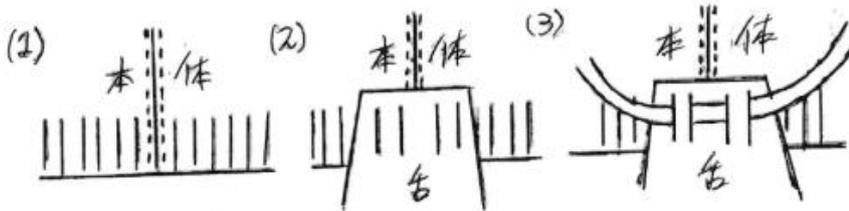
針をプライヤーで挟んで押し込む方法は後のカートの縫い合わせやベルト受けの取り付け時にも有効。また皮に開けた糸穴は小さなものなので、そこに糸を通したり引き抜いたりするのは窮屈なので難儀する。

プライヤーやペンチを使えば針を引き抜くのも楽になります。後の道具紹介ページの「先に角度がついているプライヤー」は作業効率が良いので特におススメです。



(針先を挟み引き抜く)

⑤皮レースヒモまたはスニーカーヒモを使い、まず舌を本体に取り付ける。



この時、舌のヒモ通し穴と本体の舌を付ける位置の穴は寸法を皮に記す際にキッチリと合わせておく方が良い。仕上がりがきれいになります。

オパンケ前半部を縮めていくヒダのヒモ通し部は切れ目で良いが、舌と本体の取り付け部は後で紹介するハトメ抜きを使い「長穴」を開ける。ヒダは数も多く平刀で切れ目を開けていかないと時間のロス、ヒモを通す時にはヒダが広がって通ってくれる。舌と本体取付部は一枚の皮で広がらないのでヒモを通しやすいように「長穴にする」のです。

部品の舌とブリッジの切れ目の位置と寸法は後の13~14ページ寸法図を参照。

### ※長穴開けの手順



1. ハトメ抜きで長穴5ミリの寸法線の端に穴を一つ開ける。



2. 反対の端に穴を開けさらに真ん中を開ける



3. マイナスドライバーを差し込み長穴に仕上げる。



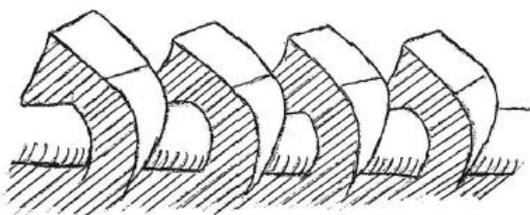
**ヒダは1枚づつが切り離されているのでヒモを通した時には左写真のように少し広がってくれるが、舌とそれを取り付ける本体部分はつながっているため広がらない。手間だがこの加工をやっておいた方が取り付けの効率が良くない仕上がりが綺麗。**

⑥ヒモを順次ヒダに通して行き、本体前半部を縮め成形していく。途中でブリッジ大を加えて取り付ける。ブリッジを付ける位置は予め本体のヒダ裏側にペンでマークしておくが良い。ブリッジ大はヒダを記していない一方を舌の接合切れ目に先に通しておく、上から見て自然に横交差する位置の本体ヒダにブリッジ大のヒダを合わせて交互にヒモを通す。ブリッジ大の長さは履く本人が足を入れてみて、足の甲周りにフィットする位置を見極める。

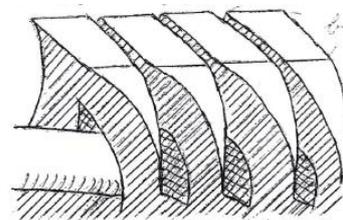
そしてその長さでヒダの寸法を反対側と同じように記し、切れ目を入れ切り離れた後にヒモを通して本体に取り付けます。

ヒモは片足で長さ40cmほどあればOK。まず舌を取り付けるが40cmの真ん中(20cm)あたりを舌の中の真ん中にする。オパンケの先端から左右交互で側面に引いていくのがベターです。この後の写真にある「皮レース針」を使うと割とスムーズに進みます。

### ヒダにヒモを通す

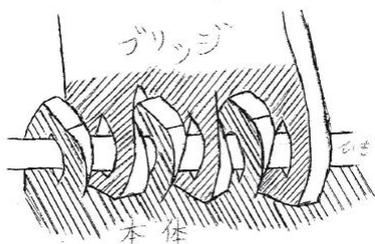


### ドライバーなどで押さえ寄せる



※千枚通しやドライバーを用意しておきヒモをヒダに3枚ほど通したらヒダの根元あたりを押さえて締める、ヒダのヒモの上あたりを押さえ揃える。この動作をくり返すして進め、しっかりヒダを寄せていく事。手間だがこれをおろそかにすると先から横面へのカーブがムラになります。

### 本体のヒダとブリッジヒダの組み方



皮レース針 →  
ヒモを引くのに便利



⑦ヒダを締め終わったら固定切れ目にヒモを通して固定。

ヒモを最後に固定する方法を書きます。ヒダを締め終わったヒモを固定用切り込み三つの1番目に表から裏へと通す。一つ飛ばして3番目の切り込みに裏から表へ通す、この時裏に通っているヒモを少したるませておく事。最後に2番目の切り込みに表から裏へ、前から後へと通っているヒモと本体の間を下に向かって通す。千枚通しで後の切り込みから表に出ているヒモを引き裏に通っているヒモのゆるみを締め、最後に中の切り込みから引き込んだヒモを下に引いて締め、全体がゆるんでいないか確認の後にヒモの余りを切る。

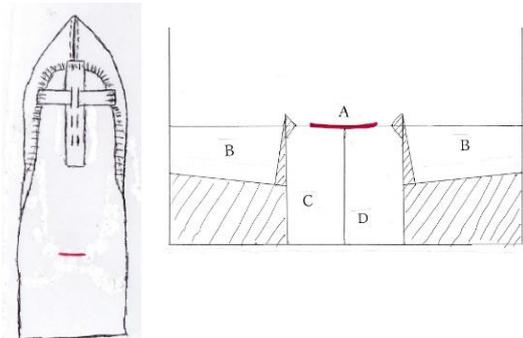
ヒモはヒダを締める過程で引っ張られている状態なので最後は結ばなくてもゆるむ事はありません。ヒモの締め終わりに結び目があると履いた時に足に当たりジャマになる。ヒモの締め終わりは通しておくだけで充分留められます。

⑤の舌の取り付け説明で「ヒダでない所は皮が広がらないので長穴にする」としている。

**ヒモの固定部も長穴にすれば通しやすいのですが、ここはあえて切れ目(それも5ミリの長さ)だけにするのは「通し終わった切れ目部分の皮が戻る事でヒモをさらに固定」しているのです。**

固定し終わった後、最後のヒダと固定切れ目の前の所で小さな三角の隙間が空いてしまうが、これはブリッジ小を取り付けて隠します。

⑧カカトの位置決め。オパンケに足を入れカカト真後ろの位置で本体皮に記しを入れる。



ここまでの作業でオパンケの形は半分できている。オパンケに足を入れカカトの真後ろの位置にペンで印の線を入れる。それがカカトの寸法基準ライン(イラストのA赤い線)となります。この基準ラインを入れる際にはペンは極力垂直にする事、足を横から見ると下から上へカーブしているのペンを斜めにとすると長さが微妙に足りなくなる。(左のイラスト)その基準ラインに従って割り付けを行い、カットして先に進んでください。



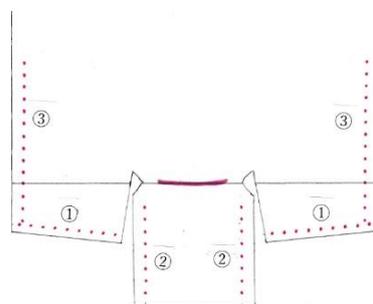
**上の展開図の斜線部は不要なので切り落とします。**

⑨カカトの寸法割り付け図に従いカット。(割り付けと寸法は14～15ページの寸法図を参照)今までと同様にハサミまたはカッターナイフで、切りそこないや手指を切らないように。

⑩糸で縫うために縫い穴の位置を寸法取りする。

合わせて足首ベルト受けを縫い付ける穴の位置も決め、カカト縫い糸穴とベルト受け縫い糸穴の双方を千枚通しで開けておく。(詳細は15ページ参照)

**カカトを縫い合わせた後でベルト受け糸穴を開けるのはすでに立体になっているのでやりにくい。平面の内にやっておくと手間が少なく済みませす。**



⑪カカトの縫い合わせを行う。

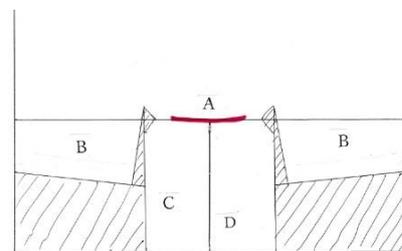
a) まずカカトの側面のBとBを麻糸で縫い合わせる。すでに糸穴は千枚通しで開けてあるので「縫うというよりは麻糸で縛っていく」という感覚で進めてください。

これはすでに行ったつま先端部の縫い合わせや後のベルト受け皮の取り付けにおいても同じ。

この場合は底の方から上に向かって縫うのが最後の糸の止めがスムーズになります。

**カカトのカット寸法割り付け図でBの側面部を底から上に向かって斜めにしているのは足の形状に合わせるため。**

足のカカトを横から見ると真後ろから上に向かって斜めになっているのが分かります。Bの側面部を斜め形状にカットしているのはこの形状に合わせるためで、こうしておくとオパンケが脱げにくくなります。



b) 後ろ正面部Cを持ち上げてB同士を縫い合わせた側面部に沿わせて縫っていく。

すでに縫い合わせてあるBの側面部にCの後ろ正面部を押し付け、両端タテの糸穴に合わ

せ内側のBの表面に糸穴を記して開けていく。カカトが成型されている状態なのでやりにくくなっているのです、そのやり方を説明します。

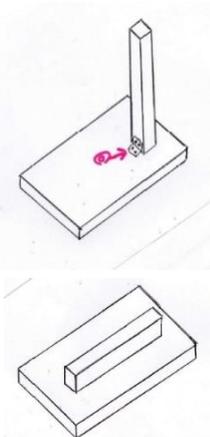
**※皮が硬いといささか手こずるがカカトの仕上げも先端部に劣らず大事。オパンケ全体の形を整えるためと思い、くじけずに行ってください。**

Cの後ろ正面部裏側にタテに2等分する線Dを引きます。この線の上端が内側部の縫い合わせラインに添うように、しっかりと押さえながら後ろ正面Cの糸穴に千枚通しの先を差し込みB表面に軽く穴をつける。貫通させる必要はない、糸穴の印つけが終わったら改めて千枚通しで側面部に糸穴を開ける。底がすでに形作られているのでやりにくいのが次のように、例えば和室用の座卓などを用いると比較的うまく進みます。

座卓をひっくり返して置き、その脚を利用する。座卓の脚先にオパンケのカカト部分を当て押さえた状態で印をした箇所に千枚通しを突き刺し糸穴を貫通させる。これをくり返します。ただし脚の先(床につく所)に穴が開いてしまいますね。私はこれをやって家にバレて叱られました。やる場合はうまく隠すか、穴が開くのは承知の上でやるか覚悟をしておくように。私はオパンケを作る機会が多いので代用品というか、イラストのような専用の道具を作りました。

### ※カカト部加工台イメージ

このような道具があれば便利ですが何足も作るのではなければ敢えて必要ではありません。日曜大作業が好きな方は挑戦されても良いかもしれません。参考までに紹介しました。



#### 用意する物

- ・10cm×40cm 厚み1cmほどの板 1枚
- ・4.5cm×4.5cm 長さ50cmほどの木材 1本
- ・丁番(ドアの開閉用金具)4cmほどの物 1個



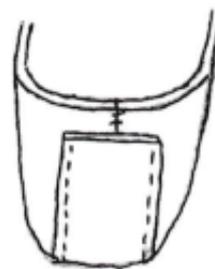
材料はホームセンターで手に入ります。板はカットしたものがあるので近い寸法のを、木の棒は「土木用の杭」で長さが近いものを選ぶ。材質は米松(ベイマツ)と言えば分かる、杭の材質はたいていがこの米松です。(右の写真)杭なので先端は尖っているが、その部分はノコギリで切り落としてしまう。左イラスト上の赤い◎の所で丁番で止めるのは

使わない時には「たたんで仕舞える」からです。動かないように板の裏から止めてしまっても良いが、それでは使わない時にジャマになるのでこのようにしています。

これなら角材の先に穴が開いても支障はないし、何度も使って上端が傷んだらその部分を切り落とせば使えるという利点があります。

c)後ろ正面部の位置を合わせたら縫いにかかる前に後ろ正面部Cが縫い合わせたBの上端より1cmほど短くなるように切る。

これは後の⑭で足首ベルト受けを縫い付ける時にジャマにならなくするためです。



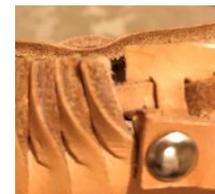
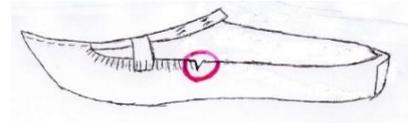
⑫ブリッジ小を取り付ける。足を入れてブリッジ小の長さを決め、端を本体に縫い付ける。

※ブリッジ大は両端に本体前半部と同様にヒダを切って取り付けたがブリッジ小はヒダは作らない。ベルト状のまま本人の足の大きさに合わせてから本体に麻糸で縫い付ける。ブリッジ小の本体への取り付けは端に2cmの余裕を取ってください。

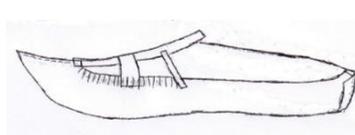
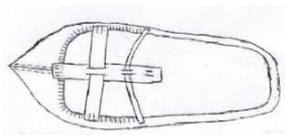


取り付け目安ライン:端から2cm  
糸穴位置:端から1cmの位置

ブリッジ小の片側に千枚通しで穴を1カ所開ける。本体につける位置はヒダの固定切れ目前と最後のヒダの間、ここに僅かな隙間が三角に開くので、そこを隠し補強する意味もあります。ブリッジ小の穴を開けた端を最後のヒダに押し付け、ブリッジ小の2cmの目安ラインを本体の上端に合わせた状態で本体に千枚通しで糸穴を開け、ブリッジ小の一端を本体に縫いつける。その後ブリッジ小のもう一端を舌のブリッジ小用の切れ目に通し、この状態で取り付け位置に合わせ再び足を入れてブリッジ小の長さを決める。長さが決まったら2cmの取り付け目安を記してブリッジの残りの端を切り落とし、同様に糸穴をすべて開けて麻糸で縫い付ける。



上イラスト赤丸部分の写真

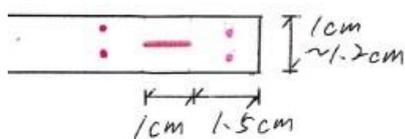
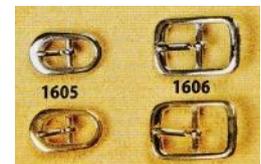


ブリッジ小の取り付け完了後のイメージ

⑬足首ベルトにバックルを付け完成させる。

イラスト図のように寸法割をして麻糸で縫い付ける。バックルに皮を差し込む時に裏表を間違えないように注意。足首ベルトにバックルを取り付けるのは以上のように麻糸で縫う方法とカシメというビスのような金具を使う方法もあるが、道具が増える事になるので何足も作るののであれば麻糸での縫い付けで充分だと思います。

足首ベルト用のバックルはベルト巾10ミリ用・12ミリ用・15ミリ用から選んでください。本体に縫い付けるベルト受けの大きさに影響するので10ミリか大きくても12ミリ巾程度が良い。形は写真のようなものがオススメ、ベルトの端を入れて固定する事ができます。



長い赤線はバックルのピンを通す長穴、この赤線部分をバックルピン根元の横棒に巻きつけて止める。赤点は糸穴の位置、麻糸で縫い止める。写真のカシメ金具を使う場合は



糸穴は開けずに、ベルト巾の中心あたりにハトメ抜きで穴を一つ開け、手ごろな大きさのカシメ金具を1個打てばしっかりと止まります。



2ページの冒頭で足首ベルトは45cmの長さが必要「途中でつなぐ」と書いている。足首ベルトのバックルから18cmくらいでつなぐと後で取り付けるベルト受けの中に入るのを目立たなくします。

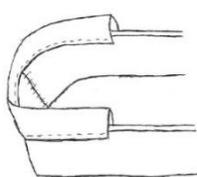
**30cmと20cmにベルト皮を切り分け、バックル側から18cmほどの位置で麻糸で縫い合わせる。縫い方に特に注意点はないが、はずれたりしないように縫う事。**

⑭足首ベルト受けを縫い付ける。

a)足首ベルト受けの薄皮を寸法割り付け図のように既にかけてある糸穴に従って本体に縫い付けていく。先端部やカカト部の縫い付けは丸針の方がお勧めだが、ここでは皮用縫い針(写真参照)を使う方が良い。本体の厚み4ミリの皮は下穴を開けておかないと縫い合わせは困難だが、ベルト受け用の1ミリほどの皮は縫い針で十分に貫通できる。皮用縫い針は裁縫用の針より先端が鋭利になっていて、指先に刺さるとかなりの傷を受けるので注意して行ってください。皮用の縫い針使用時の留意点はもう一つあるが、それは後の道具紹介ページに書いておきます。



**この注意・留意点は必ず頭に入れて針を使ってください。**

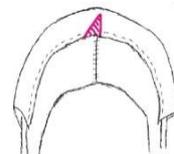


ベルト受けは本体カカト部の上端を内外からはさむように縫っていき、この時に受け皮の内側が次第に進行方向にダブっていきシワが出来てしまう。これはカーブ状の箇所皮の厚みが4ミリあり、内外で円周の差が影響するため。

先に糸穴を開けていても徐々に合わなくなっていくので糸穴は本体のみにしておく事。ベルト受けはズレを柔軟に合わせるために糸穴は開けない方がベター。

#### ※ベルト受け縫い付け時のズレを処理する方法

ベルト受け縫い付けをスタート(イラストでは右からスタート)し真後ろの位置にきたら一旦針を止める。真後ろのB同士縫い合わせた辺りでベルト受け内側を折り返した上端の少し下まで切れ目を入れ、1cmほど縫いの残り部から先ほどの切れ目の上端までを三角に切り取る。縫い穴の次の位置に引っ張り寄せ、その後はそれまでと同様に縫い付けを進めてください。



b)ベルト受けを縫い付け終わったら足首ベルトをベルト受けに通す。

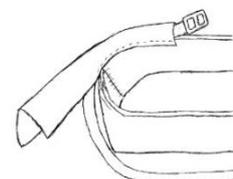


これは私が余り皮で作った足首ベルトをベルト受けに通す道具です。ベルト受けは厚み1.2ミリの皮でトンネル状の形、カカトに沿い半円カーブになっている。腰部分にゴムやヒモの入ったズボンにゴムヒモ等を通す道具を参考に作りました。

皮はオパンケ本体の余りを使う、4ミリ厚なのでシッカリして柔軟性があるので半円カーブのベルト受けの中に差し込んでいける。長さは20cmほど、一方に縫い付けに使った麻糸を付け足首ベルトのバックルのない方の端に穴を開けて結び、それから皮棒を差し込んでそのまま引き抜くとベルトをうまく通す事ができる。ベルトを引き抜く前に裏表が逆になったり捻じれたりしないように注意。皮も糸も余りを使うので作っても損はない。

ベルト受けを縫い付ける時に同時進行で足首ベルトを入れながらやるという方法もあります。

この場合にはオパンケの左右をまず決めておき、足首ベルトを入れる向きを間違えないように進めてください。



⑮足首ベルトの仕上げ。

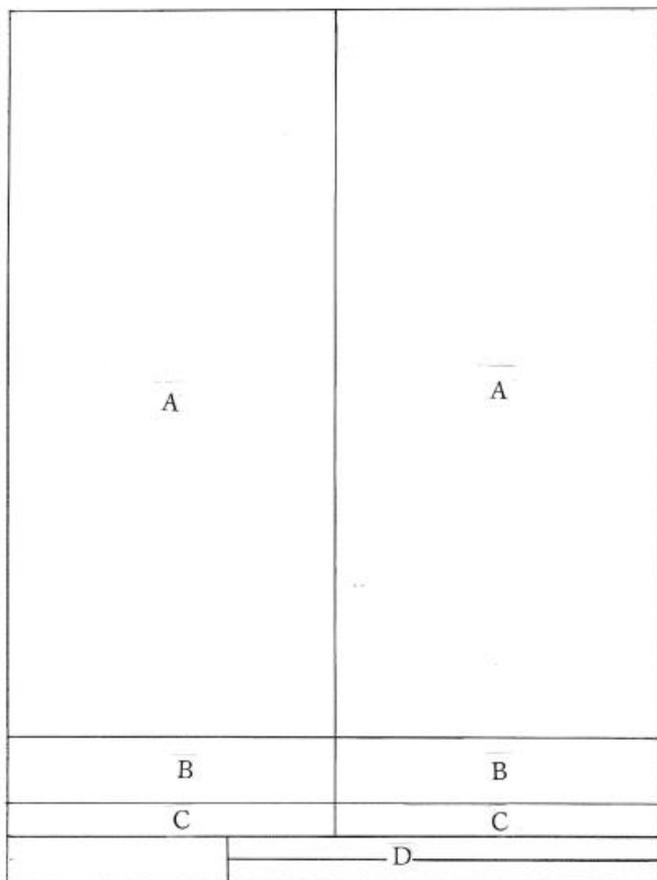
足首ベルトを舌の切れ目に通し、バックルにベルト先端を入れて位置を合わせ丁度良い位置に千枚通しで穴を開ける。足首ベルトにバックルピンで留めるための穴を開けるには皮道具の「穴あけポンチ（ハトメ抜き）」を使うときれいに開けられます。千枚通しで突いても穴は開くが、この状態は厳密に言えば「皮を不揃いに切っている」ようなもの、長い目でみれば強度が弱くなります。ハトメ抜きだと穴を切り取るのできれいな穴あけが可能、道具が増える事になるがご参考までに書き添えておきました。



穴あけが終わったらベルトの先の残りを適当な所で切り、使いやすい長さにしてから使ってください。

## ※マケドニアタイプ寸法図

本体の全体割り付け図(足首ベルトとベルト受けは含んでいません)



※寸法線の記入はすべて皮の裏側に  
普通のボールペンでOK。

オパンケ 1 足分の割り付け配置図

全体寸法 = 30cm × 45cm

A = 本体片足 15cm × 39.5cm

B = 部品：舌 3 cm × 15cm

C = 部品：ブリッジ大  
1.5cm × 15cm

D = 部品：ブリッジ小  
1 cm × 20cm

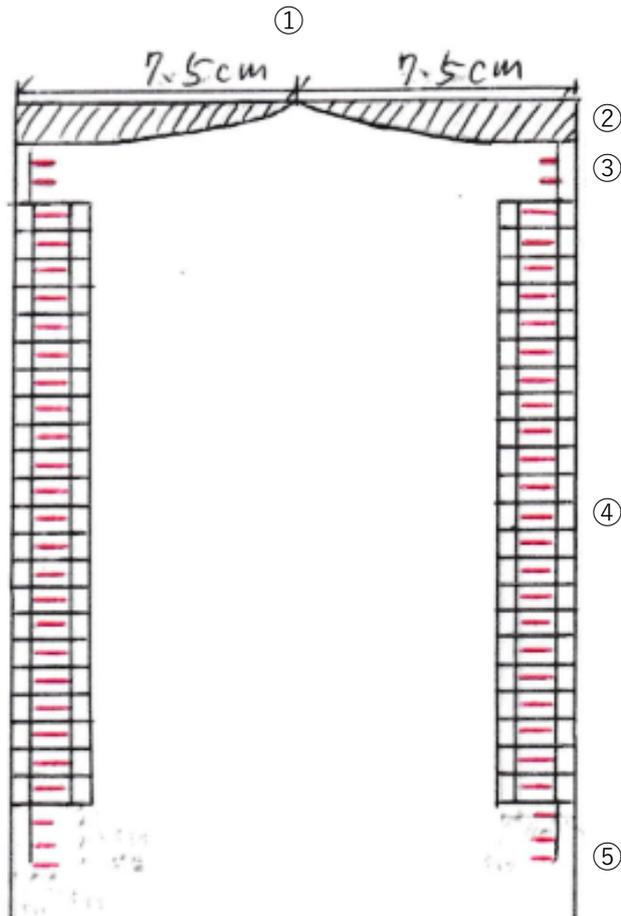
本体・部品共に長さは余分を見えています。  
履く本人の足に合わせるので後で不要な部分を切り落とします。

寸法足らずでは困るのでこれらの長さの余分は見えておいた方が安全です。

販売店で買えるサイズが例えば40cm×40cmの場合だとオパンケ本体部の横に10cm×40cmの余りが出てしまう。ここで部品をタテに配置して割り付けてもOK、仕入れた皮をムダにしないようにうまく使ってください。

片足分の長さが40cmとは長いと思うかもしれませんが、先の尖った部分で約5cm、カカトの成型に5cmほどが必要。それらの余裕をみて40cmほどとってください。

## 本体片足前半部寸法図



①つま先頂点：巾の1/2 7.5cmの所

②斜線部はカットする

オパンケつま先の尖った形を作る。

曲線左右対称に切り落とす。

③部品舌の取り付け位置

つま先を合わせて縫い付けた後に

舌の先端を付ける位置。赤い印が

太いのは切れ目ではなく5ミリの

「長穴」を開けるという意味。

④ヒダ部分

**ヒダの巾7ミリ** ・ヒダの長さ2cm

ヒモ通し切れ目 **長さ1cm**

**ヒダの数：片側22枚**

※ヒダを切り離す前に切れ目(赤い線)

を入れておくと作業がはかどる。

皮の左右縁から5ミリ離しそこから

1cmの長さに切れ目を入れていく。

ヒダの切り離しは長さをオーバーし

ないように充分に注意。

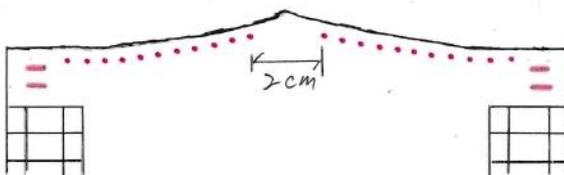
⑤ヒモの固定位置

ヒダ締め終わったヒモをここで固定。

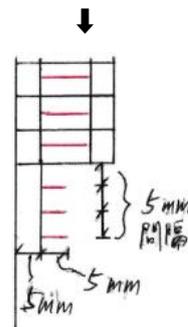
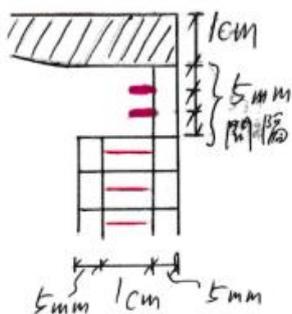
切れ目の長さ5ミリ、切れ目同士は

5ミリずつ離す。(左右とも同じ)

## つま先縫い合わせ部糸穴配置図



## 本体の舌取り付け位置寸法

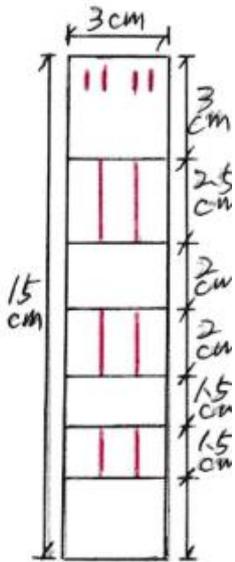


左上寸法図の右側ヒダの下に寸法を

書いていないが、ここにもヒモ固定の

寸法を入れておくのは当然です。

**部品舌寸法図**



(本体に取り付ける先端部寸法) 巾 = 3 cm ・ 長さ = 15 cm

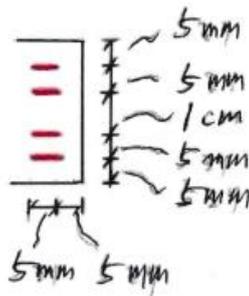
※本体つま先への取り付け位置

外側の長穴は縁から 5 ミリ

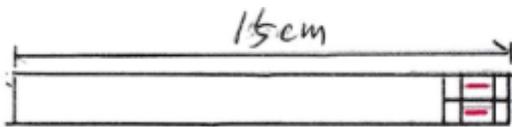
内側の長穴はそこから 5 ミリ

内側の長穴同士の間は 1 cm

- ・ 上段の赤線  
= ブリッジ大を通す切れ目
- ・ 中段の赤線  
= ブリッジ小を通す切れ目
- ・ 下段の赤線  
= 足首ベルトを通す切れ目



**部品ブリッジ大寸法図**

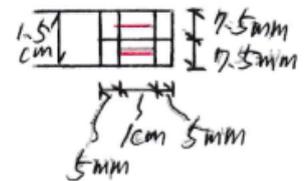


長さ = 15 cm 巾 = 1.5 cm

- ・ ヒダの長さ 2 cm
- ・ ヒモを通すヒダの切れ目の長さ 1 cm

※ヒダのもう片方の寸法入れと切り込みは片方を  
取り付けし本人のサイズを合わせた後に行う事。

ヒダ部分寸法  
拡大図



**部品ブリッジ小**

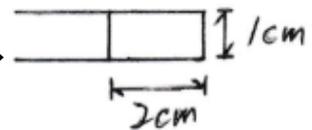


※ブリッジ大と同様にもう片方は一方を  
取り付けて本人のサイズに合わせた後  
に行う事。

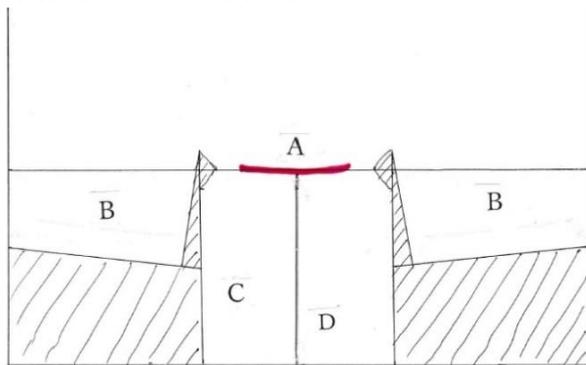
長さ = 20 cm 巾 = 1 cm

本体への取り付け目安ラインの位置 2 cm

本体取り付け部  
拡大図

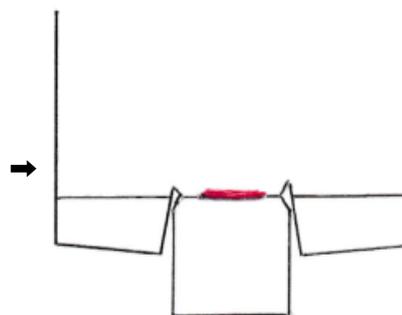


**本体片足カカト部割り付け図**



※斜線部は切り落とす部分。

斜線部をカットした後の形



カカト部分はBとCの  
接点部分をこのよう  
にカットすると縫い  
やすくなります。

A = 前半部を整形した後に足を置いたカカトの基準ライン(赤い線)

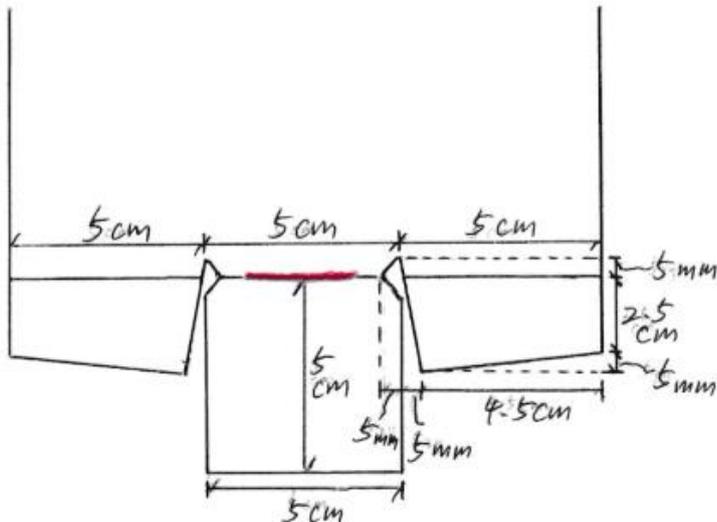
カカトの基準ライン(赤い線)

B = カカト後ろ正面部内側

**※カカト真後ろは B と C で皮が二重になります。**

C = カカト後ろ正面部外側

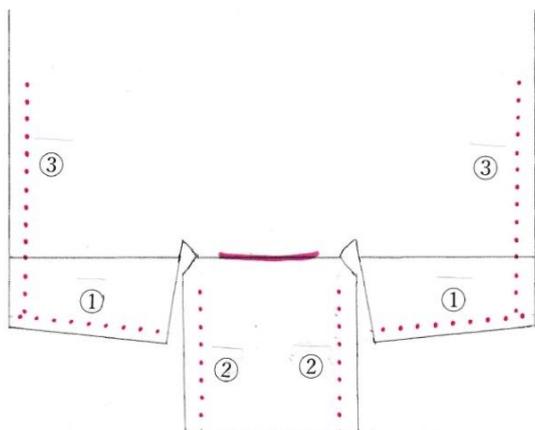
D = カカト内側部に外側部を縫い合わせる際の位置決めライン



**※カカト部寸法割り付け**

説明のためにここに書いてありますが  
上の斜線不要部切り落としの前に記入  
しておいてください。

**カカト縫い合わせ糸穴配置**



① = 14ページ左下イラストB同士を縫い合わせる  
糸穴ライン

**穴の間隔は5ミリ、縁から3ミリのライン上**

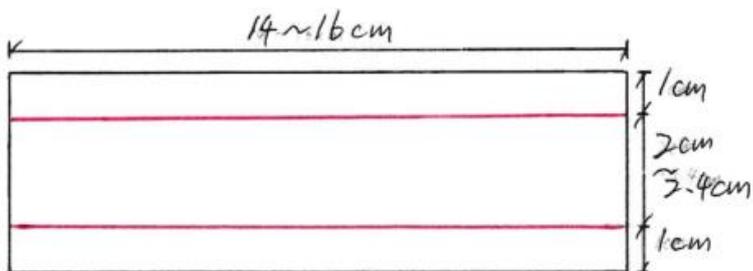
② = Cを内側のBに縫い合わせる糸穴ライン

③ = 足首ベルト受けを縫い合わせる  
糸穴ライン

**穴の間隔は5ミリ、縁からも5ミリのライン上**

部品足首ベルト受け 厚み 1.2ミリ

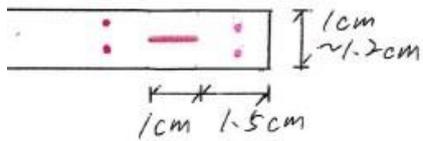
長さ = 16cmくらい 巾 = 4.2~4.5cm



**※使用するバックル巾×2倍の長さ  
本体への縫い付けの余裕を1cm  
つつ取っておく。**

赤線は本体カカト部に縫い付ける際の  
基準ライン、このラインをカカトの上縁  
に沿わせながら縫っていく。

### 部品足首ベルトバックル取り付け部



ベルトの長さ = 全長40cmほど

巾 = 1cm~1.2cm (使用のバックル巾に合わせる)

(a) = バックル取り付け長穴(長さ1cm・巾2ミリ)

バックルピンを入れるため

(b) = バックル部を止める糸穴

## 以上でマケドニアタイプの項終了

## [2]ヒモで締めるタイプ



ダンス愛好者の方々が愛用しているオパンケはほとんどが足首をベルトで締めて履きますが、ワラジのようにヒモで締めるタイプのものもある。

その作り方も紹介いたします。手順はマケドニアタイプとほぼ同じだが、舌の取り付けから前半部のヒダを締めていくヒモを長いものを使います。ヒダを締め終わったらそのまま舌に通して足の甲部分を締め、その後にかかと方向に回して仕上げるとい手順になります。

材料は前述のマケドニアタイプより少なく済む、またブリッジを使わないので甲周りが大きい人でもヒモの張り方を調整すればよいので履く事ができる、融通のきくオパンケと言えます。足首をベルトで締めて履くものと両方あれば気分転換になるのではないのでしょうか？

- ◎材料：
- ・ 本体用皮：厚み4ミリくらい（巾35cm×長さ40cm）
  - ・ 麻糸：縫い合わせ用
  - ・ ヒモ：全長2～2.5mを2本



**長い皮ヒモ、複数の皮ヒモを加工してつないであるもの。希望の長さを切り売りしてくれます。**



**クツ屋で売っているスニーカーの替えヒモ、石目調平と言えは分かれます。**

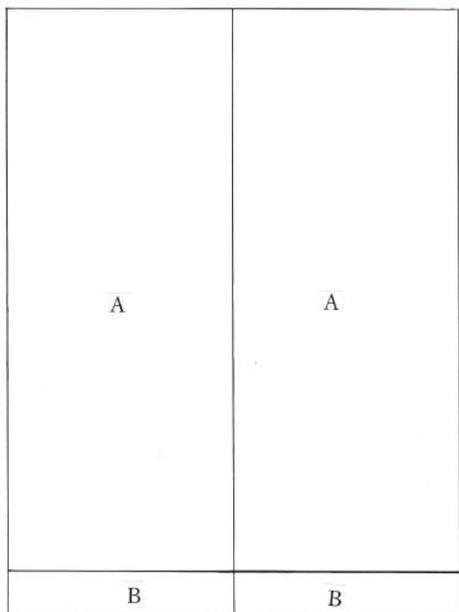
※前述のマケドニアタイプでは皮レースという皮ヒモを使いました。専門店に行けば皮ヒモも長いものを切り売りで買う事が出来ます。ただしこれは「長いヒモを作った」という事。皮は牛に成仏してもらい、それで作ります。従って何10mもの長い皮ヒモはあり得ません。

### **加工してつなぎ合わせている訳です。**

値段は高くなるし、うまく加工はしているが良く見れば途中につなぎ目があり長く使っていると突然切れる事もある。そして結構硬いのでヒモとして締めた時に足にフィットしにくいという難点があります。値段も高く片足2.5m両足で5m必要となり、おそらく3000円は下らない。オパンケ本体1足分の皮代と合わせるとバカにならない金額になってしまいます。そこでおススメするのが右上写真の「スニーカーヒモの応用」です。クツ屋なら大抵どこでもスニーカーの替えヒモを売っています。1セットで2本が概ね300円くらいなのでお手頃価格、これを2セット使用、かなりお得です。クツ屋で既製品の長さ1.2m「石目調平」というヒモを選ぶと良い、色は好みにお任せですが皮はいわゆる肌色なので目立たなくするならばベージュが合うし、濃茶色ならアクセントになる。個人的には濃茶色がおススメです。

- ◎手順： 作り方はほとんどの部分が前述のマケドニアタイプと同じなので異なる部分のみを書いておきます。前述のマケドニアタイプでは図面集は作り方手順とは別のページにまとめましたが、ヒモ締めタイプでは製作手順の合間に挿入しています。

## 全体割り付け図



ヒモ締めタイプ 1 足分の割り付け配置図

全体寸法 = 30cm × 40cm

A = 本体片足 15cm × 37cm

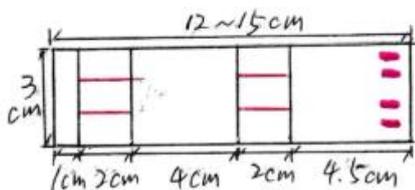
B = 部品：舌 3cm × 15cm

**※ヒモ締めタイプはブリッジを使わないので、これだけ  
ないます。**

※マケドニアタイプの項でも触れましたが、  
本体の全長は「本人の足の長さ+10cm」が基準。  
つま先の尖った形を作るのに 5cm、カカト部分  
に 5cm 使います。

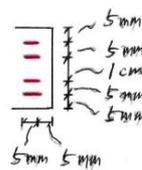
※手に入れた皮の大きさや状態によって、割り付け  
は B の部品・舌を本体の横でタテ取りしても良い。

## 部品舌寸法図



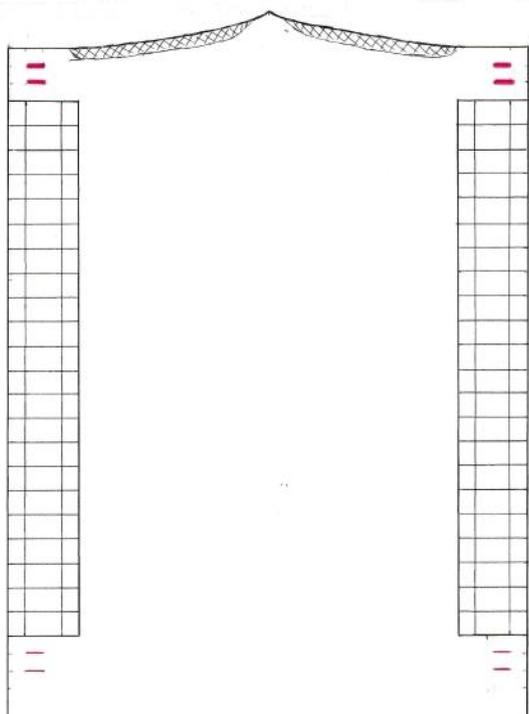
基本的にマケドニアタイプと同じ、違いはブリッジ用の切れ目  
がヒモを通すものになる点。ヒモ用切れ目は  
2カ所で全体寸法は左を参照。

右の本体との接合部寸法はマケドニアタイプと  
同じです。



**舌の本体との接合部寸法 →**

## 本体片足前半部割り付け図



製作手順① 本体皮の先端側とカカト側の区別を  
決める。(マケドニアタイプに同じ)

②～④ 皮裏への寸法記入・カット  
先端部の縫い合わせ  
(マケドニアタイプに同じ)

※部品は舌のみ。甲周回寸法もヒモで調節する  
ので気にしなくて良い。

⑤ 部品舌の本体への取り付け

ヒモ締めタイプはオパンケ先端部ヒダの縮めを行う  
のに長いヒモを使い、縮めた後そのままオパンケを  
履いた時の足への固定に使うので 2m 強ほどの長い  
1本のヒモを使う。皮ヒモは省略しスニーカーヒモ  
使用の場合について書きます。

a) クツ屋でスニーカー用替えヒモを購入「石目調平(右の写真)」。  
 長さは90cm・1m・1.2mがあるが、この場合は1.2mのものを1足に2組使用。色は右写真がベージュ、濃茶色もある。

- ・片足に1組2本を使用、2本それぞれの先端部のビニール被覆部分を片側だけ切り取る。
- ・ビニール被覆を切り取った部分同士を縫い付ける。



(これは普通の裁縫用の針と糸で充分) 約2.4mの1本のヒモにする。

b) 縫い合わせたヒモで舌を本体先端部に取り付ける。

- ・舌と本体は4本の長穴にヒモを通し取り付けるが、ヒモの通し始めは右イラストのような形。ヒモ同士のつなぎ目は表に出したくないので左右2本ずつの長穴部の内側に回すのが良い。
- ・まず本体の左右いずれかの長穴で内側からヒモの先を表に差し込み全体を引き出す。舌の同じ個所で裏から表に通す。表から残りの長穴に通してから千枚通しで引いてタルミがないように引き締める。



⑥ ヒモを順次ヒダに通して前半部を縮め成型

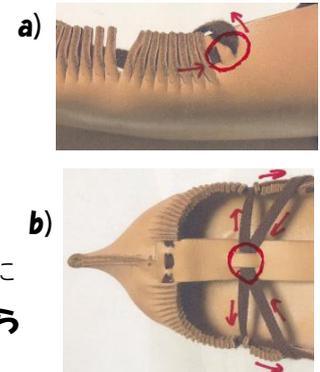
この後は前述のマケドニアタイプと同じ手順でヒダを締めて前半部を縮め形を整える。

**(ヒモが片側1.2mと長いので手間だがくじけずに)**

⑦ ヒモの固定とその後の処理

a) ヒダを締め終わったら固定用切れ目(上の割り付け図、マケドニアタイプと違い2本)の先端側切れ目に表から裏へ、次の切れ目で裏から表へ通す。

b) 舌の前の切れ目に左右クロスさせて通す。その後前の方のヒダに前から前から後へ通す。 **※この後のヒモ通しはカカトを成型してから**



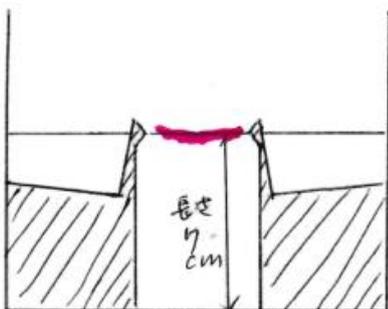
⑧～⑪ カカト位置決め・カット・糸穴つけ・縫い合わせ(手順はマケドニアタイプに同じ)

**※相違点:カカト内側部は同じだが真後ろの外側部は長くする。**

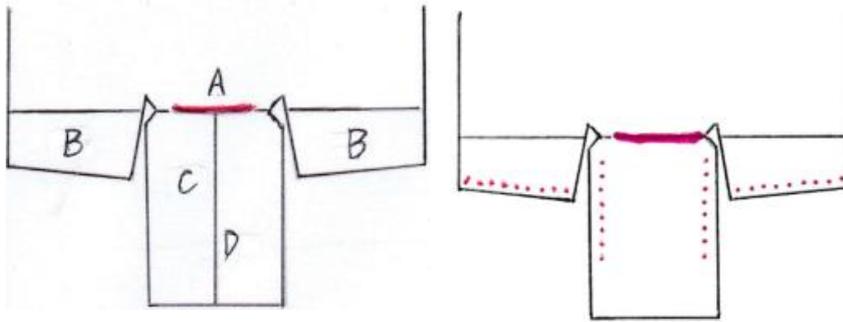
前手順の長ヒモを後ろに回し、カカトにつけた切れ目に通しやすくするため。その後さらに前に回す。写真の真後ろ部外は内側部と同じだが長くしておくとしもを通すのが楽になる。カカト真後ろ部は同じ長さでも作業は可能です。



**ヒモ締めタイプカカト部割り付け図** ・割り付けする時に真後ろ部を長くする。(この場合7cm)



- ・斜線部をカット。
- ・糸穴配置はマケドニアタイプに同じだがC糸穴はB同士との縫い合わせに対応できる長さで良い。
- ・配置に従い糸穴をすべて開け、B同士を縫い合わせる。
- ・Dの基準ラインをB同士の縫い目に合わせCのカカト外側部を内側部に縫い付ける。

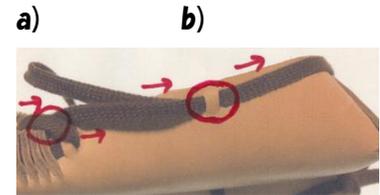


← ヒモ締めタイプのカカト部  
糸穴配置図

**※マケドニアタイプの⑫以後の  
手順はヒモ締めタイプには  
不要です。**

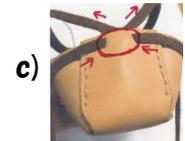
⑫ヒモをカカトへ、更に前へと回す手順（⑦以後の手順）

- a) ヒダに通した後、固定切れ目から舌の前側切れ目に向かうヒモの根元内側に通す。
- b) 側面部の履いた時のくるぶし辺りに短い切れ目を2本開けそこに通す。外周のヒモを固定するため。



**※以上の工程で前から後ろに回しているヒモをオパンケからズレないようにします。**

- c) カカト真後ろ部に2本切れ目を入れヒモを通し、足のカカト後から側面に沿うように回して前へ。
- d) 舌の後ろ側の切れ目に通す。
- e) 履いた時の足首前あたり左右に縁に対して横向き切れ目を開けそこに内側から外へヒモを通す。



◎最後にヒモの調節を行う。

1. 最初に通し終わったヒモを順に少しゆるめる。(⑫のヒモ通し手順を逆行を行う)
2. カカトから舌の手前切れ目に回っているヒモの中に足を入れて履く。
3. 舌の前側切れ目でクロスしているヒモのつま先側を引き舌を足の甲に沿わせる。
4. 側面で前からカカトに回っているヒモを引き側面部をある程度まで引き締める。
5. 足首側面に回っているヒモを引き足にフィットさせる。
6. 側面の横向き切れ目から出ているヒモを引き、舌の端も足に合わせる。
7. 残りのヒモを足首に1～2回巻き、その後に結んで履く。

**※これで本人の足にフィットさせたら6と5を逆にゆるめて脱ぎ、履く時には5と6・7を行います。初めの内は皮が硬いので足の周りにスキマができるが皮が次第にこなれて柔らかくなるので、それに合わせてヒモを締めていってください。足首に回すのは多くても2～3回くらい、回しすぎると脱ぎ履きが面倒なのと踊っている間に足は次第におくんでくるので途中で足が痛くなる事があります。皮の馴染み具合とご本人の状況に合わせてヒモの締め具合を加減してください。ヒモの残りが長すぎる場合は手ごろな長さのに切り、端は結んでおくか丁寧にすれば縫い針で端を縫っておくと良いでしょう。**

**以上でヒモ締めタイプの項終了**

### [3]薄い皮で作る場合



この前に二つのタイプの作り方を説明しました。そこで述べていますが、私は材料に厚みのある皮を使っています。

ですが各地の踊りの場で見かけるオパンケには厚み2ミリほどの薄い皮を材料として作られている事があるように思います。そこでその作り方についても触れてみたいと思います。

厚みのある皮を使う場合と異なる作り方ポイントは「クツの前半部の処理法」でしょう。下の写真の内、左は前述2タイプと同様「ヒダを縮めて成型」している。厚みのある皮を使う場合との大きな違いは「ヒダの数が多く、小さくしなければならない」という点です。最初のマケドニアタイプ・オパンケの場合、11ページの寸法図に書き添えているように「ヒダの数は片側で22枚」ですが左写真のものは45枚強ありました。なぜこうなるのか、ヒダを作りそれらをヒモで締めて縮めるのは「ヒダの皮の厚み×枚数」でオパンケ片側の側面の長さを作るからです。クツの大小はあっても前半部の長さはそうは変わらない、ある一定の長さを作る場合4ミリの皮で22枚のヒダなら、厚み半分の2ミリの皮であれば長さを構成するヒダの数は2倍ほど必要になるという事です。

問題はある程度決まった長さの中で数を増やすのなら「ヒダは小さく」しないとダメです。ヒダの大きさが小さくなるなら、それを縮めていくヒモも細くしなくてはならなくなる。強度的にも厚みのある場合に比べて弱くなることが多いからで、細ければ切れやすくなる。細い皮レースで締める、または太目の麻糸で縮めて締める作業をしたクツもありました。



**これが細い皮レースです。**



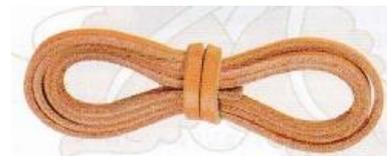
2足のオパンケの内、右のものは「ヒダを切っていない」作り、下の横向きの写真を見ると分かりますが先端の合わせ部から側面まで切れ目を入れ、それに「ヒモを通して」前半部を成型しています。縮めるだけなら切れ目は側面の真ん中までで良いのですが、部品のブリッジや足首ベルト受けを止めるためにカカトまで切れ目を入れヒモを通してしているのです。前述のマケドニアタイプ・ヒモ締めタイプ双方ともヒダを縮めて作っています。

この項では下の写真のタイプ(薄い皮でヒダを切らない)の製作に触れています。踊りの場でよく見かけるヒダを切って前半部を作るよりは製作の手間は少なくなり、クツの強度も上がると思います。



**これはこれでカッコいいというか、  
リリシイですね！**

- ◎材 料 厚み2ミリほどの皮 35cm×50cmを1枚  
 皮レース 60cm×2本 又はスニーカー用替えヒモ  
 麻糸（縫い合わせ用） 適量  
 足首ベルト用小バックル(巾15ミリ用) 2個  
 （マケドニアタイプの項10ページを参照）

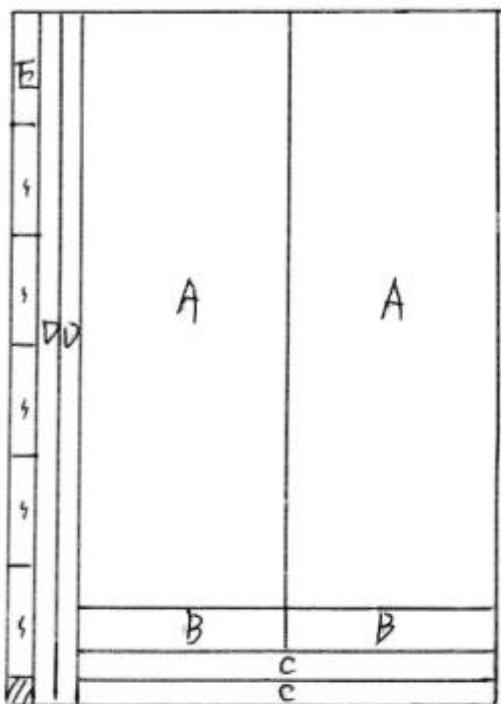


※現地産のものでは縮める作業に使うヒモは細レース(細い皮ヒモ)を使う事が多いようだが、この切れ目で縮めるのなら前述の2タイプに使った5ミリ巾の皮レースでも可能と思う。最適なのがスニーカー用替えヒモです。



## ◎製作手順

### 全体割り付け図



①前述の2タイプと同様に皮の裏側に寸法割り付けを書き込む。

A=オパンケ本体：15cm×40cm 2枚

B=部品舌：3cm×15cm 2枚

C=部品ブリッジ：2cm×15cm強 2枚

D=足首ベルト：1.5cm×45cm程 2本

E=足首ベルト受け：2cm×7cm 6枚

（この場合のベルト受けは片足に3枚ずつ）

※製作途中に寸法足らずにならないようCとDは長めにしています。

②本体と部品それぞれを切り出す。

厚みのある皮と違い、2ミリなのでハサミで充分切れます。切り分け後にそれぞれの裏に寸法割り付けを記入。

### 本体割り付け図



③それぞれの材料裏に寸法を割り付け。

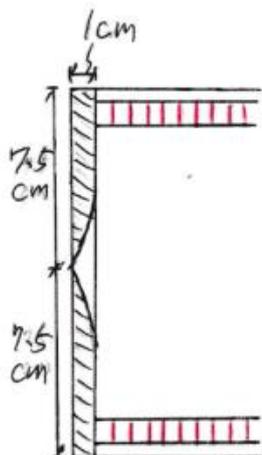
左は全体のイメージ図、斜線部は不要なので切り落とします。

本体の全長は「本人のクツサイズ+10cm強」。

先の尖った形を作るための余裕が約5cm、カカトの折り上げ部が5cm、これには少し余裕を見ておいた方が失敗がなくなります。

**このイラストにはカカト部も書いてあるがカカト位置は先端部を作った後に履く本人の足サイズに合わせてから記した方が良い。**

## 先端部寸法図



先端部は二等分し先から1cmの位置まで図のように割り付けして縫い合わせるとオパンケの形がきれいに仕上がります。

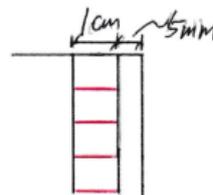
イラストの斜線部は切り落とす。

先端を縮める切れ目の配置と寸法は右のイラスト参照。

本体の縁から5ミリ離し、そこから1cmの長さ。

切れ目同士の間隔は7ミリ。最終的にカカトまで切る

**が前半部を形作ってから履く本人の足に合わせてカカトの位置を決めてからすべて切るようにしてください。**



## 先端部縫い合わせ糸穴位置



### ④先端部を縫い合わせる

先端部縫い合わせ用糸穴位置を記す。頂点から半分に折り、先端を最大限小さくして合わせる。

その裏側にペンで位置をマークし、そこからカーブラインに沿い側面部まで5ミリ間隔で

記す。縁から3ミリのライン上で縁に沿うように。



### 縫い合わせ手順

- ・糸穴の縁から2番目に裏から表へ針を通す。
- ・3番目に表から裏へ通し、反対側の3番目に裏から表へ通す。
- ・これを先端へ向かって繰り返す。
- ・先端まで行ったら飛び飛びになっている糸目を埋めるように糸目のあいている所に針を通して元まで戻る。
- ・最後に1番目の穴で2回糸を巻き、皮の合わせ目の裏で糸を止める。

縫い合わせ仕上がり



**※縫い合わせ手順は前述の2タイプと同じです。縫う時に針が押し込みにくい、引き出しづらい事があるので必要に応じペンチやフライヤーを使ってください。**

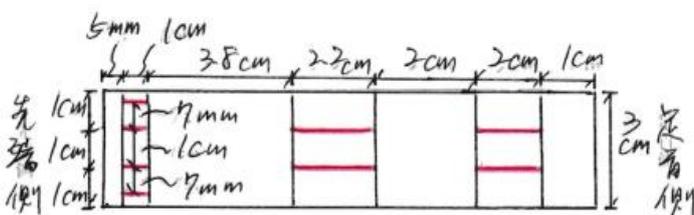


**切れ目を入れるには平刀が便利、糸穴あけは千枚通しで皮の下に下敷きゴムや古い週刊誌などを敷いて行う事。**



### ⑤舌を本体先端部に取り付ける

#### 舌寸法図



舌の割り付けは基本的に前述の2タイプと同様。赤線は左が本体への取り付け部、真ん中はブリッジを通す位置、右は足首ベルトを通す位置。

2ミリの薄い皮は柔らかいものが多いのでハサミやカッターナイフでも切れるが長さをオーバーしないようご注意ください。



前述2タイプでは舌は本体の外側に付けていました。ここでは本体の内側に付けています。先端縫い合わせ部の縫い目が外に出ているのとモデルにした現地産のオパンケも中に付けていたので、そのようにしました。内外どちらにも取り付けは可能でしょうが、その場合には幾つか処理が必要になるが挑戦されるのは良いと思います。外に付けるのも可能です。



このケースでは皮ヒモでも可能ですが、スニーカー用の替えヒモを使いました。

既製品の替えヒモは90cm・110cm・160cmなどがある。300円ほどなので90cm用を一組買えば良いでしょう。片足を縮めるのに60cmほどあればOKです。



スニーカーヒモの両端は上の写真のようになっています。

2ミリ厚の皮の場合はこの先端でそのまま通していけるでしょう。長いものを手に入れて切って使う場合は下写真のように「皮レース針」を使い、片端を挟みこんでセロテープで巻いておけばスムーズに通せます。



#### 手順

- ・60cmのヒモを二等分、真ん中がオパンケ先端縫い合わせ部をまたぐように先端1番目の切れ目に外から中へ通す。左右同時進行で行う。
- ・舌の切れ目に通す、ヒモを反転し舌の外側の切れ目に裏から表へ通す。
- ・本体の2番目の切れ目の下から上へ通し、ここでヒモのゆるみがないようにしっかりと締める。



#### ⑥舌を付けた後にヒモを順に通し前半部を縮める

- ・舌の取り付け部に続けヒモを切れ目に交互に通す。
- ・左右ともヒモが下にくぐり、外に皮が出ている所が8～9個の位置までヒモを通す。
- ・この部分を皮が波打つように縮める。ヒモを引いても良いが千枚通しや細いドライバーなどを切れ目に差し込み先端に向かって押す動作を繰り返すと波打つ形に縮める事ができる。

(左下の写真)

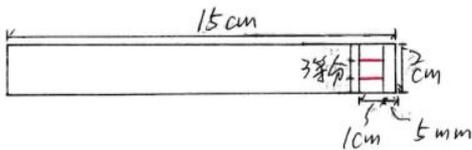


※左上は今回製作したレゾリカの先端部。右写真はモデルの現地産オパンケのもの、レゾリカは波打ちの形がいささか不揃いである。経験を積めば形が良くなっていくと思っています。



⑦縮め終わった後にブリッジを取り付け、緩まないようにヒモを止める

**ブリッジ寸法図**



**ブリッジの寸法入れは片側のみにしておく方が良い。履く本人の甲周りの大きさに合わせてから反対側の寸法を入れるとサイズ違いを起こすリスクを避ける事ができる。**

- ・縮め終わった箇所の次の切れ目でヒモを中に通す。
- ・ブリッジの切れ目の表から裏に通す。
- ・ブリッジの次の切れ目に裏から表に通し、本体の次の切れ目に中から外に通す。



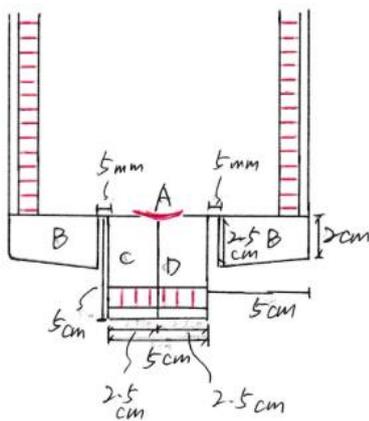
**※以上の作業の間に縮めた部分は少し緩んでいる事が多い。この後緩まないようにヒモを止める作業を行う。**

- ・先端部の縮め部分をヒモを引いて締めなおす。ヒモの先を本体の一つ前の切れ目に通し、その切れ目を一回りさせる。(右写真の赤丸部分)これで縮めた部分は緩まなくなります。
- ・足を入れてオパンケのブリッジ部分の周囲寸法を決める。
- ・ブリッジの反対側に位置合わせをマークし、すでに付けた反対側と同様に切れ目の寸法を入れて切り込みする。
- ・以上と同様にブリッジを本体に取り付けし、緩みのないようにヒモ止めを行う。

⑧カカトの位置決めを行う

**※マケドニアタイフの手順⑧と同じやり方でカカトの位置決めをする。**

**カカト部寸法割り付け図**



カカトの構成はB同士を縫い合わせ、それにCの真後ろ部を縫い付ける。手間だがこれで強度が出ます。

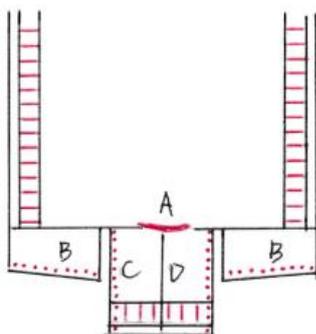
BとCの間に5ミリの隙間を取るとB同士にCを縫い付ける時に作業が楽になります。

カカトの配置が決まったら側面の切れ目をすべて切る。

⑨カカトの縫い合わせを行う

- ・糸穴はBの斜め部分に、縁から3ミリのライン上。側面部の縁から5ミリ間隔で開ける。
- ・B同士を斜め部分を突き合わせる形で縫い付け。カカト真後ろ部の内側になる。
- ・Cの側面部に沿って縁から3ミリのライン上、5ミリ間隔で糸穴を記す。
- ・合わせてあるB同士の縫い目線にDの中心線を合わせ、ズレないように押さえBの上縁に合わせる。その状態で千枚通しをCの糸穴に差し込みBに糸穴位置を記す。
- ・Bの糸穴を千枚通しで貫通させる。

**カカト糸穴配置図**

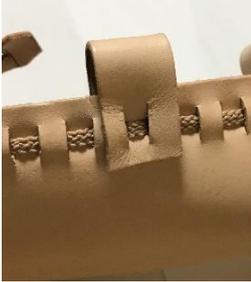




※BにCを縫い付けるが真後ろ部上縁にベルト受けを付けるので縫い合わせるのは切れ目の下までで止めておく事。ベルト受け取り付け後に上縁まで縫うので残りの糸と針をそのまま残しておく、針を2本用意して進行させる。

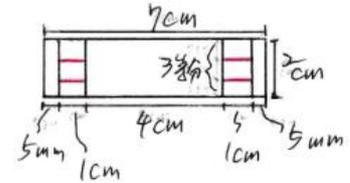
⑩前半部緩み止めの後のヒモ通しと足首ベルト受けの取り付け

⑦で緩み止めのために切れ目を一周させたヒモをカカトに向けて交互に通していく。



※3枚あるベルト受けの内、側面部の2枚を付ける。取り付け位置は足を入れるくぼしの少し前あたり。

足首ベルト受け寸法図



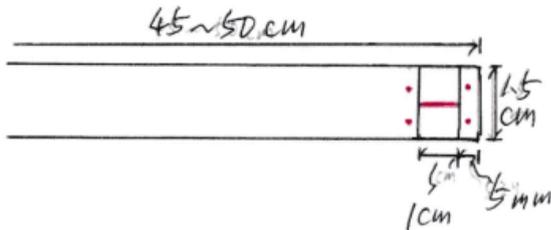
- ・ベルト受け取り付け位置に来たら切れ目の順に従いベルト受けの外側切れ目に通す。
- ・その位置の本体切れ目に通しクツ内側でベルト受けの切れ目に通す。
- ・その後は切れ目の順に表へ通しベルト受けを本体に固定する。

※前半部はオパンケの先を形作るためにヒモを引き縮めるがフリッジからカカトまではヒモが緩まない程度に引いておけば良い。

- ・⑨で途中まで縫ってあるCのカカト真後ろ部外側にベルト受けの残りの1枚を取り付ける。Cの外側をまたぐようにベルト受けを真後ろの位置にヒモで取り付ける。
- ・真後ろ部でヒモを緩んだ状態でおき、Cの縫い付け途中の麻糸で上の縁まで縫い上げる。
- ・ベルト受けと本体の際でヒモを結ぶ。緩んでいないように注意。

⑪足首ベルトを作り出来上がった本体に差し込む

足首ベルト寸法図



- ・バックルを付けるための糸穴とバックルピンを通す長穴を開ける。長穴の中は2ミリほど。
- ・バックルのピン受け軸に巻く際に表裏を間違えないように注意の上、麻糸で縫い合わせる。

※この説明では足首ベルトを1枚で作るため30×45cmを材料としました。クツ本体長さは35cmほどで作る事ができます。販売店では40cm角などで売られている事が多いので足首

ベルトを1枚で作れない場合は途中でつないで作るのもOK。

ベルトの先端は写真のように斜めカットしておくくとベルト受けに通しやすくなります。



以上で薄い皮でヒダを切らずに作るタイプの項終了

## [4]編み上げベルトの作り方



オパンケの作り方説明書にするつもりだったのですが、悪ノリして追加しました。踊り始めてしばらくの間はベルトホールドは普通のベルトでやっていたのですが、ある時に既製品の編み上げベルトを使っている人を見て「これは面白い」と感じたのがキッカケです。

オパンケの時と同じで物は試しとやってみたら出来てしまいました。編み上げの利点(普通のベルトと違う点)は編みであるので握った時の手のひらへのフィット感が良い、それに編む事で

ベルトの厚みがほぼ倍になっている(厚みがあるので握りやすい)。こんな所でしょうか？

私がいま使っているベルトは2本目で2017年の作、1本目は1980年頃に初めて試作し、うまくできたのでずっと愛用していましたが、2015年の名古屋先崎さん講習会の時に切れました。

1本目は35年使用、よくもったものだと思います。2本目がどのくらいまで使えるものか？

私はいま68才なので30年強使えるとして100才くらいまではOK、それまでベルトして踊ってたらバケモノでしょうね。☺ 皆さん付き合ってくださいか？

◎材料： 厚み4ミリほどのベルト状の皮 1本 巾4cm×長さ1.5m

**材料皮の長さが1.5mは長すぎるのでは？と思われるでしょう。例えば80cmに仕上げるとすれば先端のバックルに差し込む部分を20cm取ったとして1m+アルファでも1.2mくらいでいいのではと。1.5mというのは販売店で売られている既製品のベルト用材料皮であるという事。もう一点、こちらが大事な点ですが「編み上げベルトだから長くないとダメ」という事です。後の製作手順③で右端のAを左へ交互に編むがAのヒモはほぼ真横に伸びます。この後の過程でBCDEも同様に動く、編むことで「全体の長さが縮む」という現象が起きるのです。作るベルトの仕上がり寸法にもよるが1本の編み上げを行うと最大で10cm縮んだ事があります。この「編むと縮む」という事を見込んで材料皮の長さを決めないと作った後でガックリという事態になるのでご注意ください。**

バックル 1個 巾3.5cm **ベルト巾は本人の好みに合わせて結構です。**

バックル止め皮 厚み1.2ミリほど 3.5cm×7~9cm 1枚

**※手順の中で説明しますが、バックル巾はベルト巾の4/5くらいにすると仕上がり  
と見た目の納まりが良くなります。**



私はこの形のバックルを使っています。一般で売られているベルトのバックルは下写真の形がほとんど、バックルの端の佐し込み金具を押さえると根元の歯が食



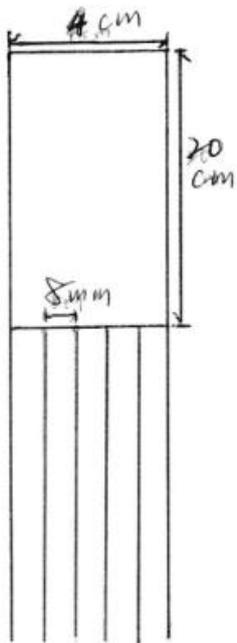
い込んで止まるようにできています。この方がサイズを合わせておけば取り付けは簡単ですがダンスのホールド用ベルトの場合、踊っていて左右の人に強く引っ張られるので長い間にはバックルがズレてくる事があります。



上写真のバックルの取り付けは別の薄い皮でベルト本体に縫い付ける作業が必要にはなるが、その後の使用には問題ないので個人的にはこちらをおすすめします。

◎手順： 細かくはこの後に記しますが基本は「女の子の長い髪を三つ編みにする」と同じ要領です。髪が皮ヒモに変わり、本数5本を五つ編みにして作るという感覚です。

### 基本寸法図



①ベルト皮の具合を確認し、先端側とバックル側を決める。

オパンケ作りの時と同様で「皮にはそれぞれクセがある」ので、それを確かめてください。穴を開けバックルのピンに通す部分はなるべくシッカリしているのが良い、皮の状態を見極めておく事。

②ベルト皮の裏側に寸法を記入。

先のバックルに通す部分の長さを20cm(使う人によっては短くても良い場合があるので人に応じて決める)で線引き、残り部分をタテに5等分する線引きを行う。

この材料皮の場合は巾4cmなので8ミリ間隔の線を末端まで入れる。

③線に従いタテにカットしていき、細い5本ヒモのムチ状にする。

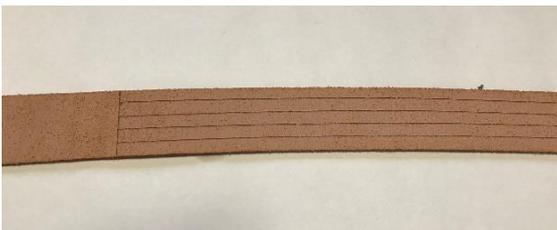
ハサミ等で慎重にカット。皮が柔らかい場合はハサミで切る方が斜め切りや隣の細ヒモ部分を切る危険が少ない。皮が硬い場合は必要に応じてカッターナイフを使用する。



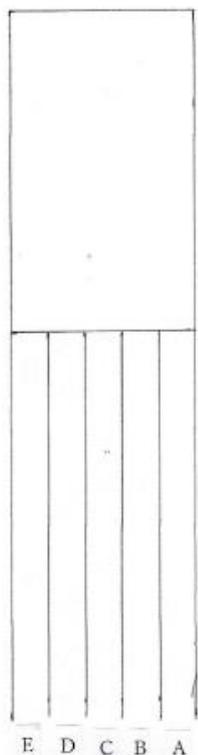
左写真はハサミ使用、右写真は分かりづらいが金属定規をあてカッターナイフで切っている。

下の写真をよく見ると分かるが、長いベルト状の皮は真っすぐに置いたようでもカーブしている事が多い。

このままカッターで切ると刃先が横それし、切りそこなうと材料が使えなくなる。右上写真は厚み4ミリほどのベニヤ板にベルト皮を沿わせカーブしないように切っています。この手順は手間ではあるがカッターナイフで切る場合にはやっておいた方が失敗がなくなります。



カット後に表面で置く ③5本のヒモを編み込んでいく。



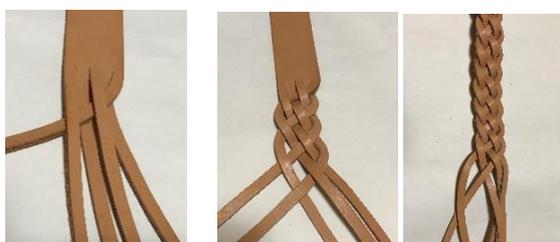
編む折りにベルト皮の裏表区別は別に問題ではないが「見えるのは表」という事で表面を見ながら編んでいます。また右端からスタートでなくとも左からの方が編みやすい人はそのように行って結構です。

右端のAからスタートしBCDEと順に上下交互に編む(3枚写真の左側)。

Bからスタートし同様に編む。Aを左から右へ上下交互にくぐらせる。

Bも同様に右へ上下交互にくぐらせる(3枚写真の真ん中)。

以上の動作を繰り返し編み進んでいく(3枚写真右側)。



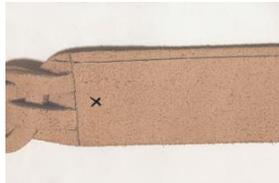
一気に編んでしまうと編み目が緩んだり不揃いになるので5cmほど編んだら真ん中写真のように左右に広げて編み目を詰めていく動作を繰り返してください。

④必要な長さに編み上げたらバックル側を固定。

この作業は結構手間ですが大事なポイント、5本のヒモ状に別れているものを1本のベルトにまとめる作業。少タイラつくかもしれませんが落ち着いてやってください。

#### これを行う時の注意点

- ・編み上げは仕上りの長さよりも長くしておく事。
- ・床や広いテーブル上で真っすぐに伸ばし、バックルを置いて仕上がり長さを確認する。
- ・小さくて見にくい(左写真の◎部分)バックルのピンが接する外枠の内側から先側の編み始めの外1cmほどの所(右写真の×印)の間が仕上がり寸法となります。



手元にスケール(巻き尺)を用意して作業してください。

※これはホールド用ベルトです。スポン等に通常使用する本人ジャストサイズよりは拳二つ分ほどゆるめておくのがホールド用ベルトサイズとなります。

- ・長さが決まったらバックル根元部分5cm程度を残し編みをほどく。
- ・再度長さを確認し編みの根元を麻糸で固定。
- ・バックル取り付けの空間を残して不要な部分をカット。



5本の内、真ん中はバックルを付けた時にピンの動きを妨げないように5ミリほど短くする。(次30ページ最上段の写真)

⑤バックルをベルトに取り付け。

- ・厚み1.2ミリほどのバックル止め皮でバックルをベルトに取り付ける。
- ・ベルトに対して裏表とバックルの前後を間違えないように、止め皮をバックル真ん中のピン軸にかぶせる。その状態でピン軸に近い位置でピン軸から5ミリ以内、左右2本ずつに糸穴を開ける。

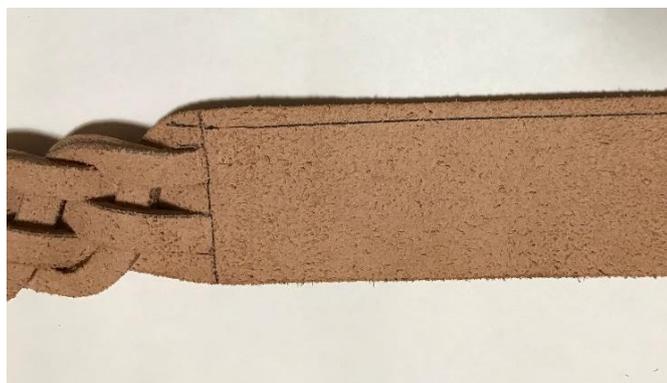
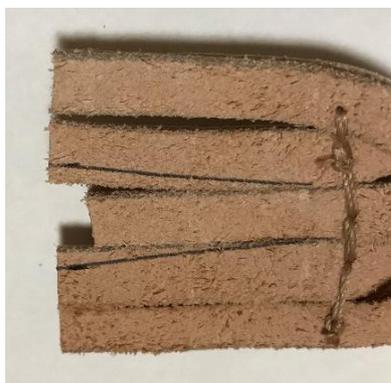
**バックルがあるので水平になりにくい、机やテーブルの端の場所などを  
使い、ズしないように開けてください。**

- ・麻糸でピン軸直近の部分を止める。これでベルトとバックルを固定すれば後の作業は楽になります。
- ・止め皮長さの中央とベルトの編み終わりに近い場所の2カ所を糸で止めてベルトがほぼ完成。



**※冒頭の材料の項にあるバックルがベルト巾に対して4/5である理由。**

この編み上げベルトを作り始めた頃はベルトとバックルは同じ寸法でした。使っていてベルト先とバックル根元部に比べてベルト編み上げ部分が少し細いのが気になるようになった。  
髪の三つ編みでも同じだが5本を編むという事は仕上がりは4本分の巾になるのです。  
編んでいるので常に1本が芯になっている(裏側に隠れているという事)のでそうなります。  
別に気にしなければそのまま結構、私は見栄えを考え編み上げ部分の巾に揃えています。



左写真はバックル取り付け部のもの。5本の内、2本を2.5ミリずつベルト編み終わり根元の近くまでを切り落とす。右写真、ベルト先側の丸みがあり巾が広がっている所に5ミリの線を引きこれを切り落とす。先側のこの部分は編み始めのイラストAの部分、切り落とすとAの根元は3ミリほどの巾になるが、皮の厚みは4ミリあるので使っている間に切れる事はありません。以上の作業は見栄えを気にしないのなら不要です。お好みで決めてください。

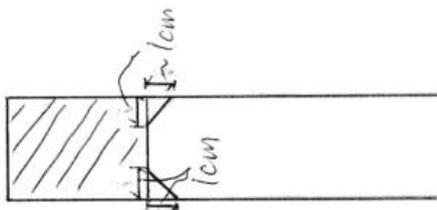
⑥使う人に合わせてバックルピン穴を開ける。

④の段階で概ねの長さは決まっています。使う人に合わせてちょうど良い位置にバックルのピンで留めるための穴を「ハトメ抜き」で開けます。マケドニアタイプオパンケ作り方の項で触れたハトメ抜きは切り穴の小さなものでしたが、ベルトの場合は切り穴の大きさ3ミリほどのものを使った方がピンの差し戻しがスムーズになります。

ホールド専用のベルトならピン穴は1カ所で充分ですが、3cm間隔で計3カ所くらい開けて

おくのも良いでしょう。最後に必要に応じてベルトの先側20cmを程よい長さに切ります。ベルト先側は20cmで最初に線引きしているがベルトホールドで握る場合、先が長すぎジャマになる事がある。使う人の希望に応じて短くしておくとも良いでしょう。必要な長さが決まったら、その位置でラインを引きさらに両角を1cm斜めにカットし完成となります。

#### ベルト先端仕上げ時のカット寸法



#### ベルト穴あけ用のハトメ抜き



#### ※最後に補足説明が一つあります。

ベルトの材料皮の硬さの程度によって使っている内に全体が長くなる場合があるので、それについて補足します。この現象は皮が柔らかい場合に見られ、伸びるのではなく編んだ部分**全体がダンスでホールドする事で引っ張られ「編み目が詰まってくる」**ので起こります。。

手順③の写真横の説明文で「5cmほど編んだら左右に広げ編み目を詰める」と書いている。それでも完全には詰まらないが使っている間にそのように自然になっていくのです。



左写真に引いた直線部分で1ミリ詰まったとしましょう。10cmの編み目の中にこの直線が7カ所引け、編み部分全体が60cmあったとすれば

**(1ミリ×7)×6=42ミリ:4.2cm全体が長くなるという事です。**

いささかオーバーと思われるかもしれませんが3～6カ月後に4cmほど全体が長くなった事実があります。その場合はバックル止め皮を一旦はずして編み目を必要分ほどき、改めて長さを決めてバックルを付け直すという作業をすれば解決します。手間ですが作った人なら手直しはできるでしょう。

## 以上でホールド用編み上げベルトの項終了

## ※オパンケ作りについての余談

バルカンを踊っている人たちが履いている「先のとがった魔法使いのクツみたい」なものをオパンケと皆で呼んでいます。オパンケ(opankaあるいはopanke)とは主にマケドニアでの呼び名で、セルビアではオパンチ(opanci)またはオピンチ(opinci)、そしてブルガリアでは全般的にツァルブーリ(cârbuli)と呼ばれているとの事です。

オパンケを履くのはマケドニア・セルビア・クロアチア・ブルガリア・アルバニア・ルーマニア・トルコ、ただし厳密にこれらの国々だけと言い切るとはいいかどうかはまでは分かりません。またこれらの国々でも地域によっては皮の短靴あるいはブーツを履く、面白い例ではクロアチアに麦の穂で編んだ「麦わら短靴」というのもあり、写真で見た事があります。オパンケにも色んな形があります。このガイドブックの最後の方に色々なオパンケを紹介するページを作っています。単に「作り方説明書」では愛想がなく、面白くないので追加しました。

私は長年オパンケを作ってきました。当初は「とにかく出来ればいいや」という程度の感覚でした。何でもそうだと思いますが、やってると次第に余計な事もあれこれと考えるようになってくるもので、オパンケの先端の上り具合や尖り方がきれいになっていないのが目についたりしてしまいます。それが出来栄の改善につながるからいいか、と自分で理屈をつけてやっています。



ずっと作っていて気になっていたのがカカト部分の処理法でした。私がやってきたカカトの作り方は右上写真のように皮を切って三方から折り上げて縫う方法、箱を作るようなものです。疑問だったのが左上写真のシュマディヤ(セルビア)タイプのカカト、下写真を見てもらうと分かるが全体が船のような形でカカトに縫い目がなく、一体でカーブしています。どうしたらこんな事ができるのか？



後に「これは木型で成型してる」からだと教えてもらいました。現地ではオパンチの専用木型を使い、水で濡らした皮を木型に固定し、そのまま乾燥させ大まかな形を作っているという事でした。右下写真



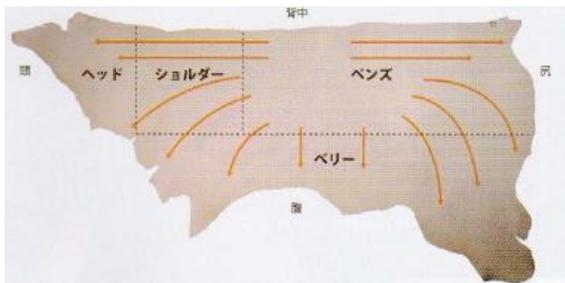
は私のオパンチのカカト部分ですが黒い穴が見えますね。これは木型に固定するためにクギを打った際の穴です。本来なら製品になった時に目立たない位置に打つべきなのですが、これを作った人はたぶん大らかな性格だったのでしょう。

クツを作る際に木型を使うというのは町中のオーダーメイドのクツ屋でも実際にやっているもので別に珍しいことではありません。オパンチ作りでも同じという事です。

これをお読みの皆さんにはどうでもいい事かもしれませんが、物作りをしているとこんな事が気になったりもします。オパンケとベルトの作り方を解説してきて余分な文章だったかもませんがご容赦ください。

## ◎材料と道具の紹介

オパンケ作りに必要な材料・道具を紹介します。必ずしもとは限らないができればあった方が良いと思われる物も含めて紹介しました。ご参考にどうぞ。



皮は左の写真のような形で加工されており、これで牛一頭の半分、この写真は左側です。上が背中、下が腹部、左が頭方向、皮の品質でいえば背中側が良いものとなります。腹や足の根元に近い部分はよく見るとシワの跡があり、状況によっては製品になった後で切れたりすることもあります。

皮の値段はDS(デシ)という単位で表示されており、1デシは10cm×10cm。半頭分の皮なら概ね200デシ強、大きいものなら300デシ近くになり、値段は店によってまた加工の手間をどのくらいかけているかによって違います。オパンケ1足分なら30cm×45cmほど必要、店によっては希望の大きさにカット売りしてくれる所もあるが、その場合は1デシあたりの値段は大きなものを買うよりは高くなるでしょう。

**私は厚み4ミリの牛皮を使います。** 以前に他の人が書いた説明文を見たのですが、その人は厚み2ミリほどの皮を使ったとの事。それぞれのやり方ですが厚みがある方がクツが丈夫にできる、**それで私は厚み4ミリをおススメします。**



左はある大手専門店の売り場です。良いものを安く手に入れるにはこのような店に行き、売り場の中から選ぶことです。このような店は後に紹介する道具も豊富に揃っています。

道具紹介の後に販売店のリストがあるので参考にしてください。販売店には大手の卸店、そこから仕入れている個人小売店やチェーン店があります。PCで大手卸店のホームページを見ればその販売店

の取引先である小売店の一覧リストがあり、それらの店舗はほぼ全国的に分布している。主要都市なら「必ずある」と言っても過言ではないでしょう。

大手卸店のホームページからはPCでのネット販売に参加する事も可能、材料・道具を手に入れるのはどこにお住まいでも「作ってみよう」と思われるなら不自由はしないはず。ただ材料皮の品質が良く安いものを手に入れるのなら実際に販売店に足を運び、ご自分の目で見られるのが良いと思います。

個人的な話で恐縮ですが、私は基本的にアナログ人間です。カタログやPCネットの情報は事前にある程度の情報・内容を把握した後に参考にする程度の利用をしています。

体を動かし汗や冷や汗をかき、こんなはずでは？と考え込んだり、そんなこんなでこれらを作ってきました。「ひとつ作ってみるか」という方々のお役に少しでもたてば幸いです。

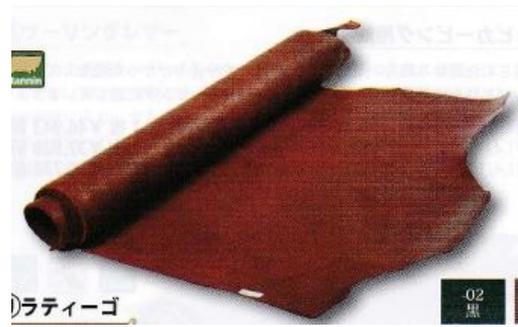
## a)皮材料(オパンケ本体)

### ①牛ヌメ特厚 (厚み4ミリ)



皮の余分な汚れや油分などを取り除いた後厚みを一律になめしてあります。色はいわゆる肌色で、最初は白っぽくて物足りなく思うでしょう。けっこう硬い。皮は使っている内に徐々に柔らかくなり色も日焼けで次第に茶色くなる。長い目で見れば損はないでしょう。

### ②牛ラティーゴ (厚み3.8ミリ)



この皮は予めオイル加工がされている。厚みを一律になめした後にオイルを使い柔軟に仕上がっている上に色も茶系に染まっている。店で程よい大きさの皮が妥当な値段で見つければこれがお薦め。柔らかい分作るのも楽です。ただヌメに比べると値段は高くなるでしょう。



左の写真は作ってから10年近くになるオパンケです。この皮も製作当時は左上のヌメ皮のように白っぽい肌色でしたが、年数がたち自然な日焼けでこのような色合いになりました。材質もけっこう硬かったので製作にはいささか手を焼きましたが今では皮質もこなれて柔らかくなり愛用してくださっています。

最初から色付けされている皮で作ると手っ取り早いでしょうがこのように自然の変化に任せるのも良い結果が得られるのです。ご参考になれば幸いです。

## 本体に必要な皮の大きさ

半足分 = 15cm巾 (男性) 13cm巾 (女性) 全長 = 45cm × 2枚 (30cm × 45cmで1足分ですネ)

※女性は男性に比べて足は小さくなります。従って本体片足の中は2cm狭めています。これは当然個人差があるので概ねの目安とってください。

※本体皮の長さは足のサイズ + 10cm (つま先の尖り部分とカカトを整形するのに必要な長さ) + 部品取りに要する長さの合計、以上で概ね40cm。

※靴のサイズが26cm以上で大きい人の場合は片足の本体皮の中に注意してください。様子を見て必要であれば巾を片足分で広げていく事、本体巾が小さいとクツに仕上がった時に浅くなり履きづらいという状況になります。必要に応じて5mmから1cm、足巾が広いようであれば2cmくらい広げる方が良いでしょう。

※皮をどのようにカットしていくかは13~16ページの寸法図を参考にしてください。

## b)部品としての皮



厚み1.2ミリほどの薄い皮、足首ベルトとベルト受けの材料です。この厚みのものは販売店で30cm角程度にカットした状態で売られている事が多い。33ページの販売店写真のように大きなものを丸巻きで置いている店もある。じっくり探せば良いものがみつかります。ただし「そんなに大きな物はいらぬ」場合が多い。必要に応じて手に入れてください。

ベルト受け＝巾50ミリ・長さ16cm位×2枚

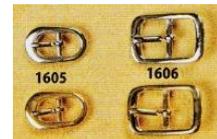
足首ベルト＝巾10～12ミリ・長さ45cm×2本

ベルト受けはそんなに長くないので問題ないがベルトは45cmほどの長さが必要。そこで間でつなぐというやり方もある。ベルト受けに隠れる部分でつなぐとOK。

足首ベルトバックル

10～12ミリ位×2個

・足首ベルトのバックルは写真のような形がおススメ。真ん中のピンがついている所にベルトの元を止め、ベルトの先を後ろの枠に差せば押さえになる。



## c)その他材料(ヒモ及び糸)

・皮レース：レザークラフト業界では細くヒモ状に切ったものを「皮レース」と呼びます。



オパンケの前半分のヒダを締めるのに使用。左上の写真は「ラティーゴレース」、34ページの本体用皮のオイル加工した皮をヒモに加工したもの。柔らかくヒダを締めていくのに適しており、販売店で「ラティーゴレース」と言えば分かります。巾5ミリで60cmから1mの長さで売っている。オパンケの片足のヒダを締めるには40cmほどあればOKなので必要な長さを確認して買ってください。



左中の写真は加工して長くしたレースを丸巻きで展示してあり必要な長さをメートル単位で買えるが材質がやや硬い、加工で長くつないであるもので見えない所につなぎ目があり使用の状況によっては突然切れる事がある。レースが硬いと締める作業が手こずるので良く選んでから決めてください。



手ごろな皮レースヒモが手に入らない場合、クツ屋でスニーカー用の替えヒモを買い、それで行う事もできます。

強度的には何ら問題ない、柔らかいので皮レースよりも適しているかもしれない。写真の色はベージュ、皮は肌色または茶系の色合いなのでこれが適していると思う。

クツ屋で「石目調平」のスニーカーヒモと言えば分かります。長さ90cmから120cm、2本組で値段は300円ほどでお得です。

・縫い合わせ用麻糸：写真の麻糸はベージュ、皮の色は肌色または茶系なのでスニーカーヒモ同様にこの色が最適。販売店に行けば他の色もある。濃茶色を使えば縫い糸がアクセントになる場合もある。以前に人が書かれた説明で糸に「ロウ曳き」とあったが、ロウをせずとも強度的問題はない。糸の太さは何種かあるが、私はこのラベルにあるように「中細」が使いやすい。いくつかを試してみるのがいいでしょう。



## b)道具一覧

私が製作に使っている道具を並べて紹介してあります。何足も作るものでなければ特に必要ではない物もあります。ご参考までに道具タイトルの後ろにマークを入れておきました。

◎＝必需品    ○＝あった方が便利    △＝代用品で可能

### 皮切りハサミ◎



これは必需品。専門店ではなくホームセンターで「万能ハサミ」として似た切れ味のハサミがあります。洋裁用くらいでは皮を切るのには適さないでしょう。専門店以外で買う場合は写真のように刃よりも握り部分が大きいものを選んでください。一般の握り部分が大きくないハサミは皮の場合は使いづらいはず。なお刃がかなり鋭いので使用注意の事。

### カッターナイフ○



あればけっこう便利、長めの直線ラインをカットするならおススメです。ただし切る場合には金属性の定規を用意しておく事、慣れた人でも刃が横滑りするので金属定規に沿わせて使えば安全できれいに切れます。なおカットする時の注意ですがホルダーから刃を出しすぎない事。この刃は薄いバネのようなもの、長すぎるとたわむので横滑りやラインがずれ下手すると手や指を切る。刃は切っ先をホルダーから1cm出す程度に。

### 金属定規○



カッターナイフで皮を切る場合、あれば刃が横それしないようにフォローするのに使えるので便利。長さは30cmくらいあれば充分、写真のものは全長60cmで私はベルト作成など長く切る事もあるので、どうせならと長いものを使っています。

### 木づち◎



本体皮に糸を通したりする下穴を開ける際に千枚通しを叩くのに必要。千枚通しを手で押すよりは正確な位置に皮面に対して真っすぐに開けらる、ハンマー(金づち)でもやれなくはないが打撃面が大きいので良好。いわゆるプロの職人は木づちを必要に応じてよく使います。

## ゴム板△



厚み1cmほど、タテ横はいろいろありますが私は12×15cmのものを使っています。糸縫い用の下穴を開けたり、後に出てくるハトメ抜きで穴を打ち抜く際に下敷きとして使用。これはあった方が良いが厚みのあるもの例えば週刊誌の古いものなどで代用できます。

## 下敷き○



カッターナイフで皮の長いラインをカットする時に必要。下敷きをしないと床や机の表面に切り傷が入ってしまい、後で悔やむか家の人に叱られるという状況になるのでご注意ください。写真は私の道具の一つで、厚みは3ミリタテ横45cm×30cmのやや硬いゴム板です。使いふるしのベニヤ板などがあればそれで代用OK。ベニヤ板はホームセンターに行けば小さくカットしたものが買えます。

## 平刀○



オパンケ前半部のヒダの中のヒモを通す切れ目を切る際にあれば便利。部品の舌にブリッジを通すための切れ目を入れたりにも使える。あとは本体のつま先やカカトの縫い合わせで皮の裏側を削いで薄くする際にこれをノミのように使っています。私は大小2本を使い分け、平刃の中は「大=12mm・小=6mm」のものです。

## 千枚通し(目打ち)◎



写真のものは千枚通しというよりは目打ちというべきでしょう。親の遺品で洋裁用のものです。千枚通しというサイズはいろいろだが、たこ焼き屋で使っているものを思い起こしてもらおうと良いでしょう。あまり長くない方が使いやすいと思います。必需品と言えるが知人で持っている人がいれば一時借りるのも一策、探せば案外に持っている人は多いものだと思います。

## 皮用の針◎



洋裁用でもできない事はないが専門店で皮用の針を買うのがベター。洋裁用では折れたり曲がったりで「歯が立たない」という状況になる確率が高い。その中で私は縫う皮の厚みに応じて「縫い針」と「丸針」を分けています。



下写真の左が皮用縫い針、右が丸針。写真は不鮮明で分かりづらいがそれぞれの先端部。丸針の先端は尖ってはいないが縫い針は槍の穂先のように断面は三角になっている。三角の角が刃のようになっており細い下穴に糸を通していく時に先に通っている糸を切ってしまう事がある。また針を引く際に指先を三角のエッジで切る事が多い。

### 皮レース針◎



ヒダに皮ヒモまたはスニーカーヒモを通していく時に非常に便利。針の元がバネのように二枚に分かれており、そこに皮ヒモの端を挟む事が出来るようになっている。オパンケのヒダにヒモを通す時に重宝。写真では見えないが二枚に分かれた内側中に上向きの小さなツメがありこれが皮ヒモの表面に食い込むのでヒモが抜けにくく出来ています。

### マイナスドライバー◎



ヒダを締めるために皮ヒモを通していくが、ヒダの切れ目は切ったままでは閉じている状況なので皮レース針を使っても通しにくい場合が多い。そこで切れ目を必要に応じて少し広げた方が作業がスムーズ、マイナスドライバーを手元に置いておくと便利です。先端を切れ目に差し込んで押し込む、必要に応じて回すようにして切れ目を広げるという使い方です。ドライバーは家庭に備えている事は多い、作業の手元に置いてください。

### ハトメ抜き○



なくても何とかなるがあった方が便利でしょう。足首ベルトのバックルピンが入る穴を開ける。千枚通しで突いてもOKだが突き刺すのは厳密に言えば「不揃いに切っている」状態です。これを使えば「穴を切り取る」事ができ、ベルトが長持ちします。またオパンケつま先に部品の舌を付ける際にこれで5mmの長さで少し巾のある溝穴を開ければ皮ヒモが通しやすくなる。詳しくは6ページの作り方説明を見てください。

### プライヤー&ペンチ



この写真の道具は「ウォーターパイププライヤー」というもの。水道屋が水道管の付け替えなどに使っています。普通のペンチやプライヤーは真っすぐだが、これは挟む部分が握る柄に対して斜めになっている。この角度が意外と細かい作業にも適しているので重宝しています。皮は厚みもありそれなりに硬い、皮を組み合わせて切れ目に差し込んで引き抜いたりする作業が楽になります。皮を縫い合わせる時にも針を差し込むのに先に針を挟み押し込む、あるいは針の先端は出ているのに抜けない時に挟んで引き抜くといったように使います。作業効率が良くなります。

### カシメ打ち・カシメ打ち台・カシメ金具



**これらは別になくてもオパンケ作りに影響はないが、効率よく製作ができるので私は折々に使っています。**

打ち台に置き、木づちでたたき込むとボタンのような感じで仕上がります。オパンケの真ん中あたりでブリッジ小を本体に止めたり、足首ベルトにバックルを付ける際に糸で縫う代わりにカシメを1個打って止めるという使い方。数を作らなくてはならない時に手間と時間の短縮ができます。

右端のカシメ金具の一方(足の長い方)を穴に差し込み、反対側から出ている足先にキャップ状の方をはめて打ち台の上で棒状のカシメ打ちで木づちなどでたたき込めば完成。

余談だがカシメはズボンのジープンのポケットの端を止めるのにも使われている。素材同士をしっかりと止めるという効果に優れており、衣料品やバッグの要所や機械・工具製作などの分野でも使用されている。皮製品の製作や加工でも補強の手段として使います。

## ◎皮材料及び道具類販売店紹介

いざオパンケを作ろうという気になって「材料・道具はどこへ行けば揃うんだ？」となるでしょう。そこで販売店を数軒紹介します。販売店にも小売店・専門店・卸店などあります。店名の後に種別を書いておきます。大きい店は小売店への卸もやっており、小売店は全国の主要な市や町にある。最近ではネット販売をしている店もあるので材料・道具の調達には困らないでしょう。大手卸店のホームページにアクセスすれば全国各地の小売店一覧リストが出てきます。

店 舗 名	店 の 概 要 説 明
(株)クラフト社 卸&小売 東京都杉並区荻窪5-16-21 ☎ 03-3393-2222 Fax 03-3866-3228	ホームページ <a href="http://www.craftsha.co.jp">http://www.craftsha.co.jp</a> 本社荻窪店・革楽屋(そごう千葉店内)この2店舗は小売可能。 ※ホームページ冒頭の「全国取扱店一覧」に300強の取引先 取扱店のリストが掲載されています。主要都市には必ずある と言える規模、材料道具の販売もしています。
(株)協進エル 卸&小売 東京都台東区鳥越2-10-8 ☎ 03-3866-3221 Fax 03-3866-3226	ホームページ <a href="http://leather-craft@kyoushin-elle.co.jp">http://leather-craft@kyoushin-elle.co.jp</a> ※ホームページ冒頭の「Shop List」に全国140ほどの取引先 店名が出ています。 [ネット通販に対応可]
(株)誠和 卸&小売 Seiwa Corporation 東京都新宿区下落合1-1-1 ☎ 03-3364-2111 Fax 03-3364-2115	ホームページ <a href="http://seiwa-net.jp/">http://seiwa-net.jp/</a> 直営店：高田馬場・渋谷・博多 ※ホームページの「Shop List」に全国120強の取引店が出て おりオンラインショップもあります。
(有)ホビークラフト 卸&小売 タニモト 大阪府中央区本町1-5-6 山甚ビル3F ☎ 06-4708-6585 Fax 06-4708-6584	ホームページ <a href="http://www.tanimoto-hobby.jp/shop/">http://www.tanimoto-hobby.jp/shop/</a> 大阪船場にあり、皮を含む手芸材料の専門店。 ホームページよりオンラインショップ取引も可能。

<p>アークオアシス 小売 新潟県三条市上須頃445 ☎ 0256-33-6000</p>	<p>ホームページ <a href="http://arc-oasis.com/company/">http://arc-oasis.com/company/</a> 直営店：大麻(北海道江別市)・新潟・仙台泉・金沢・久喜菖蒲 (埼玉県)・京都駅前・京都八幡・姫路 ※それぞれの所在地はホームページに出ています。 [ホームページよりネット通販対応可]</p>
---	---

## ◎オパンケを販売しているお店の紹介

皮や道具の販売店を書き終わってから「作るよりも売っている所は？」という声が出てきそうな気がして急遽付け加えました。たまたまこういうお店があると知った事もあります。

**欲しい、という方が気に入ったものがすぐに手に入るかどうかの責任は負えませんので、その点は悪しからずお願いいたします。値段や手に入る納期などはお店に直接お問い合わせください。**

店 舗 名	店 の 概 要 説 明
<p>ブルガリア雑貨 コキーチェ Kokiche 名古屋市守山区甘軒家8-4 〒463-0065 ☎ 052-792-8280 メール <a href="mailto:kokiche@rose.plala.or.jp">kokiche@rose.plala.or.jp</a></p>	<p>ホームページ <a href="http://kokiche.com">http://kokiche.com</a> ブルガリア雑貨の店でオパンケも含め、いろいろ取り扱っています。オパンケの在庫があると言われると？たまたまあればよし、ない場合は取り寄せできるそう。ただし来週にくれ、とはいかないでしょう。注文できるが1年くらいかかるケースもあるらしいので、それを承知で交渉してください。</p>



**これはコキーチェさんで  
購入したオパンケだそうです。**

**Kiri** セルビアの業者 ホームページアドレス <http://www.opanci.com/rs>  
ネットで見つけたオパンケやコスチュームの販売業者です。

[Latinica](#) [Опанчарева кћи](#)  
[English](#)

[Почетна](#) [Опанци](#) [Народне ношње](#) [О нама](#) [Контакт](#)

**Opanci** su seoska laka, kožna obuća, koja se priteže oko nogu kaišima ili oputom. Bili su osnovna obuća većine stanovnika u selima Srbije do prve polovine XX veka.

Kod Srba, opanak je tradicionalna srpska obuća i njen je nacionalni simbol.

Na Balkanskom poluostrvu ova obuća je veoma rasprostranjena u raznim oblicima, modnim detaljima i bojama, a opanci su takođe i narodna nošnja u Makedoniji, Bosni i Hrvatskoj.



Šumadijski opanak sa klijunom



Šumadijski opanak bez klijuna



Vlaški opanci



Šopski opanci



Шумадијска ношња



Ношња околине Београда

Kiri に直接問い合わせメールを送ったが返信はありませんでした。グーグル翻訳を使って英文で送ったのですが、うまく内容が伝わらなかったかもしれません。利用してみようと思われる場合、海外なのでネット取引に詳しい人にたずねるなど調べた上で行われる事をお勧めいたします。このような業者が存在するという参考になれば幸いです。

**Kiri のホームページを見ていくと最後の方に「問い合わせフォーム」があるのでそこからメール発信ができます。英語で伝わるとは思いますがはっきりとは言えません。**

## ◎様々なオパンケの紹介

一口にオパンケと言っても国や地域によって様々な形があります。この冊子を「ガイドブック」という、いささか大げさなタイトルにしたのは単に作り方解説だけでなく、色んな形の紹介をするページを加えたためです。分かる範囲ですが写真と少しの解説を付けてみました。これをご覧になって知っておられる事や付け加えるべき事をご存じでしたら教えていただくと幸いです。

### A.マケドニアのオパンケ

これらのクツをダンス愛好者の間では「オパンケ(Opanke)」と呼んでいますが、マケドニアでの呼び名がそれであり、他の国々では異なる呼び名であるとの事です。

①この形のものが一番多く利用されている。



作り方解説で説明しているのもこのタイプです。両側面部にヒダを作り、それをヒモで引き寄せて前半部を作っている。マケドニアタイプと呼んでいるがブルガリアにもこのような形は見られます。

②K i r iのページから転載



形と作り方は同じ、甲部分の舌とブリッジ足首ベルトとベルト受けの色が違う。

③民族学博物館の資料からの写真



一見①②と同じに見えるが、ヒダを切っているのは先端に近い6～7枚だけであとは等間隔に切れ目を入れ、ヒダを捻じって縮めた後は切れ目にヒモを側面部からカカトまで通している。ヒモを周囲に通す事でクツの形を成形し、同時にブリッジや足首ベルトとベルト受けを取り付けている。作り方の点でいえばシンプル、普段使いのクツならこの作り方が主だった

③国立民族学博物館提供写真

### B.セルビアのもの

セルビアではオパンケではなく、オパンチ(Opanci)またはオピンチ(Opinci)と呼ばれます。作り方の面から違いを言えばまずはカカトの作り方。マケドニアやブルガリアではカカトは皮をカットして三方から箱を作るように折り上げるのが主なのであるが、セルビアでは木型に固定して皮全体を写真のような形に成形し仕上げている。巾2ミリほどの薄い皮ヒモを使っての細かな手仕事が見事、④と⑤は同じクツで⑤をよく見てもらえば甲部分は細く薄い皮ヒモを編んで1枚にしてあり、更に足首に近いあたりはまるで洋服のレースのような細かい模様が作ってあります。シュマディヤのものは特に装飾性が見事です。



④と⑤は同じもの。  
元の写真が古くて色あせており、いささか不鮮明ですが悪しからず。  
甲部分の装飾細工の他の特徴として履く



時に足首ベルトで止めるのではなく1本の長い皮ヒモをふくらはぎに巻き付けてヒモ先のフックを引っかけて止めるタイプ。  
⑥は足首ベルトタイプ。⑦は④⑤と同じ止め方のクツです。

**⑦は国立民族学博物館提供の写真**



これはあるPCネットサイトから借用した写真、前述のKiri店舗内作業場の様子です。

壁の棚に緑色のものが多数並んでいますね。これらはすべてOpanciを作るための木型です。前ページで触れている木型とはこれらの事です。数が多いと思われるでしょうが、色んなサイズに対応しようとするれば必要なのだと思います。

(© Serbian Walker.com)



セルビアタイプのもう一つの特徴が先端の上に曲がった形、すべてがそうとは言えないが他の国地域との大きな違いでしょう。 **⑧⑨はKiriホームページより転載**

**⑪**ワラキア

**⑫**グラモチキ



セルビアと言って良いかどうか？ですがほぼ近い場所。

ワラキアはブルガリアではブラシュコ、ギリシアではブラフと呼ばれます。

**⑪⑫はKiriホームページより転載**

### C.ヘルツェゴヴィナ



ボスニアヘルツェゴビナの一地域を構成するところ。形は一見シンプルだが手の込んだ作りである。

セルビアと関連あるいは接する地域の特徴としては「足首ベルト取り付けにベルト受けを使わない」という点でしょう。

足首ベルトは細く薄い皮ヒモで本体に直接「縫うように」付けられています。

またベルトではなく長い皮ヒモで足首からふくらはぎにかけて巻き付けるような履き方を  
するケースが見られます。

**Kiriホームページより転載**

### C.ブルガリアのもの



ブルガリアではオパンケでもオパンチでもなく、ツァルブーリ (Cârbuli)と一般に呼ばれているようです。

マケドニアタイプの所で「ブルガリアにも似た形がある」と書きましたが、⑮はそれが具体的に分かるものです。

ブルガリアには足首ベルトで履くのではなく、長いヒモを使い「日本のワラジのように」履くものが多いように見受けま

す。皮ワラジと説明するのは変でしょうか？

⑭は国立民族学博物館提供

⑮はKiriホームページより転載



### D.その他の国・地域

#### ⑯フルヴァツカ＝クロアチアのもの



ここまで紹介した中では最も装飾的と言えるでしょう。

写真の色が薄いのは古いので色あせてしまったため。

左足がバラけて見えるのは横に出ているのが足首ベルトで飾りが施されています。

**(写真が古いのでいささか不鮮明です。)**

#### ⑰ブルドゥル（トルコ）のもの



これは山形の所有品  
トルコにもオパンケはあったと知って感激(オーバー?)しました。

オパンケガイドブックお読みいただきありがとうございました。作り方解説の部分、お役に立ったでしょうか。内容についてお気づきの点や作り方について「もう少し教えろ」という事があればお問い合わせくださると幸いです。文章は私の我流ですので今一つという事もあるのではないかと考えています。「余談」の項や「様々なオパンケの紹介」の項でそれらしい事を書いています。私の個人的見解（思い込み）が入っていないとは言えません。専門書や学術的な冊子ではありませんのでご容赦ください。

これはダンス仲間の提案で、整理をする意味で書き始めたものです。これをご覧になり「自分で作るのちょっと？山形に作ってもらおう」と思われる方がおられるかもしれません。

もしおられるとしたら、期待してくださるのはありがたいと思います。ただ申し訳ありませんがそれはご容赦ください。オパンケを作る事、それはそれなりの手間はかかるが特に難しい事ではありません。ただ私は今年で68才になりました。この冊子を書き上げた事で「オパンケを作る事」からは引退しようと思っております。

それなりの年齢になり、以前ほどには踊れなくなってもきました。講習会やパーティーの場でも自分が出しゃばるのではなく、皆さんについて踊らせてもらうようになっています。ダンスに関連する知識についても良くご存じの方が大勢おられます。まだ踊る事に興味があります。過去には出しゃばって行事を開催したり、踊りの場で先頭に出て踊ったりもしてきました。これからも愛好者の皆さんと共に、皆さんの踊りのリードについて踊らせていただこうと思っております。今後ともよろしく願い申し上げます。

オパンケに関して「現地産オパンケの修理」については必要であればやらせていただきます。現地産オパンケで踊りを楽しんでおられる方は大勢おられます。ただ長年使って切れたりして履けなくなったという人に何人かお会いし、それらのオパンケを直しました。現地産のものを直すと「作り方の細かい所に気づく事」ができます。状況によっては修理が難しいものもありますが、よろしければ声をかけてください。この後に連絡先を書いておきます。

作成 2019年12月

オパンケガイドブック記述内容文責：山形知己

◎連絡先 〒576-0053 大阪府交野市郡津5-69-7

山形知己

※PCをご利用の方、お手数ですが上記へアドレスをご連絡ください。冊子はPDFにしたものをメールで送ります。すでに私のアドレスをご存じなら遠慮なくお問い合わせください。

# Let's Dance!!

